女子青年界第十四巻第七號（毎月一回一日發行）
大正六年七月一日發行 大正六年六月二十八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

# 女子青年界

第十四巻
七月號

## 要目

完全消毒

# 『萬歳』齒刷子

## 『萬歳』齒刷子の特長

一、毛束の大さや長さが、一つ一つ違へてあつて、其先が尖らしてありますから、大少の齒の間や、咀嚼面の凸凹部をうまく磨ける樣になつてゐます。

一、毛束の列べ方を齒列に合ふ樣にしましたから、普通の楊枝の届かない奥齒の奥まで具合よく磨けるやうになつてゐます。

一、男子用、婦人用、子供用と分けて、それに硬軟大小とありますから、銘銘自分に適するものを撰んで使へる樣になつてゐます。

一、毛束の間に隙が拵へてありますから、洗ふにも乾かすにも便利でございます。尚乾かす時には柄の端にある孔を釘にでも懸けると宜しい。

一、柄を外に曲げて持ち易く使ひ易くしてあります。

一、大きさを日本人向に致しましたから、舶來品にある樣な不便はありません。

一、消毒の上嚴重に封じてありますから、病菌傳播の憂もなく誠に氣持が宜しうございます。



▽定價

男子用 廿五錢
婦人用 二十錢
子供用 十五錢

東京市本所區外手町
ライオン齒磨本舗
ライオン石鹸本舗
小林富次郎
支店 大阪市東區博勞町二丁目
名古屋市桑名町四丁

# 女子青年界第十四巻第七號

## 目次



## YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)


Volume (XIV) JUNE 1917. Number 7.




前付一

前付三

前付六

FINE HAND-CROCHETED GOODS

DRAWN WORK, &c.

are made to order at a low price

BY

# MRS. KATO'S INSTITUTE

of

# FANCY WORK

## 會員募集

□ドロンウオークの講習は毎週土曜日午後一時より日曜日は午前十時より午後四時迄。

□此先生は長砂夫人、出來ない方でも出來る方でも一人一人に御教授致します。

□此外手ミシン、足ミシンの使用法及隨意御使用。

□又むつかしい編物の編方

□家庭內職としては輸出編物も御世話いたします、お友達と話しながら慈善費や雜誌代が得られます

委細は規則書で申上ます

東京九段坂下公園前(九段下停留場より一丁)

## 外人嗜好編物研究所

加藤咲子

### 規則書

御入用の方は郵券貳錢を添へて御申込みになれば御送り致します。

又九段下電車停留前「英語で商賣」の文房具店エスカ堂にもありますから御覽下さい。

---

EVERYTHING PHOTOGRAPHY

EXPERT KODAK FINISHER

## S. MIKADO PHOTO CO

29, Unemecho Kyobashiku

TOKYO JAPAN.

Tel No. 2272. Shimbashi

寫眞器械材料販賣

出寫併寫眞一般應需

## 美門商會

東京市京橋區采女町

廿九番地歌舞伎座前

電話新橋二二七二番

振替東京一九四九四番

---

# MARUICHIYA

***Manufacturer & Dealer in Silk Goods, Paper Goods, Stationery Calendars.***

All kinds of cards and fancygoods.

Whole sale and retail

Mail orders executed promptly.

*No. 8, 9, Bentendori, Itchome, YOKOHAMA*

PHONE. No. 4751

美術雜貨製造卸小賣

## 丸一屋

横濱辨天通一丁目八、九番地

電話四七五一番

第十四巻 七月號

女子青年界

大正六年七月一日發行

會説

# 修養會に就て

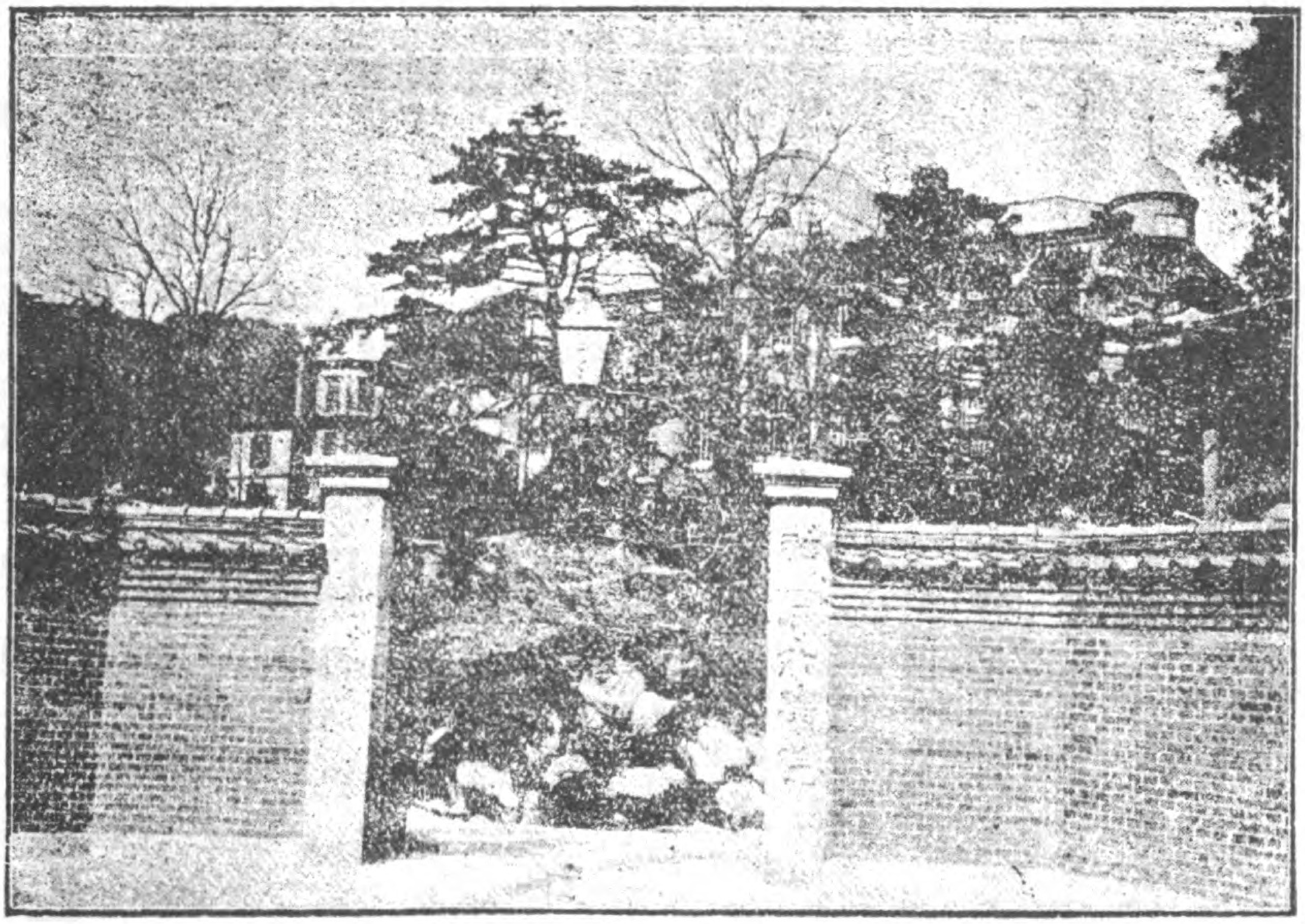
河井道子

## 何故修養會は必要なりや

近頃其處此處に何々修養會とて宗教、教育、社交的の會合が處々に催されるのを見ますが誠に吉祥ばしき現象であります。此夏には御殿場に於て協同傳道大會修養會が開かれ、又日曜學校教師の修養會或は教役者修養會、男女青年會の修養會等が各地に開かれる事となつて居ります。或人が問ふて言ふには『普通社會には時々修養會も開催する必要がありませう、然し基督者は毎日曜日に禮拜集會をし、又家に在りては朝夕、祈禱、聖書を讀む等が恒例であるから愈々時日を定めて連日修養會など開く必要が何處にありませうか』と一寸聞くと如何にも尤もの樣ですが抑斯る修養を目的とする會合の嚆矢は基督教社會から起つたのであります。

## 神と靈交密なる者程教會に出席す

不思議な事には家庭禮拜、個人祈禱を尊ぶ者程日曜日の禮拜にも出席する事が多く、之に反して家に在りて密かに神と靈交を結ばざる者は敎會に出席する事も冷淡であります。そして大きな連合的修養會に出席する者の大多數は敎會に忠實に出入する者であります、是等の點より考へますと眞に修養會を歡迎する者は高き人格を、色々の方法で築かんと平素から希つて



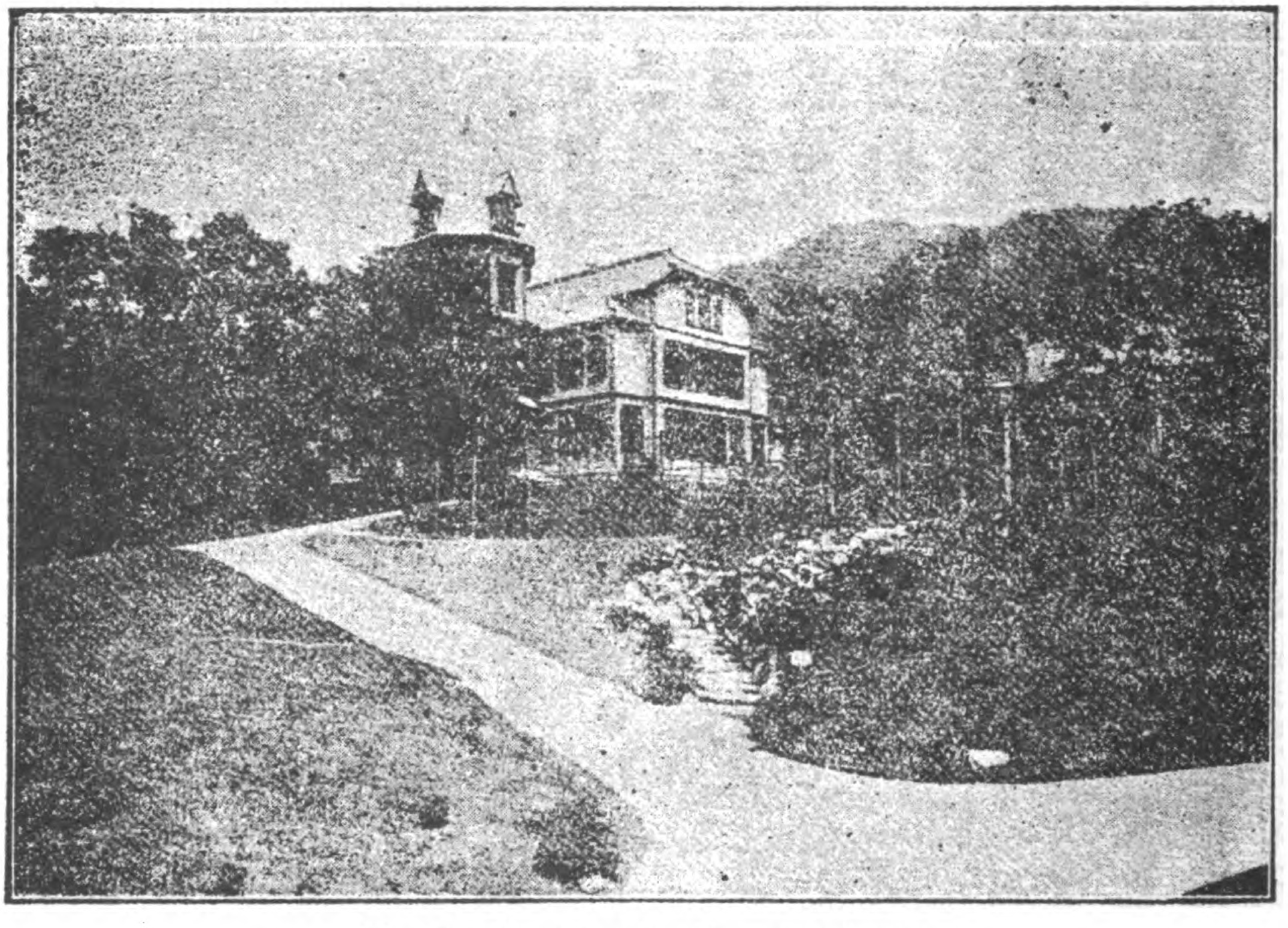
神戸女學院表門

居る者であつて、常に密なる所に見給ふ神に祈り、同志者の會合を樂しみ、機を得なば先輩、友人達より彼等の指敎又は經驗談を謹聽するを喜ぶのであります。學事に志す者にも此道理があります、即止を得ず獨學をして常に字引や參考書を以て熱心に研究して居る者には學校で若し勉强する事を許すといふてやつたら此上なく感謝して其處で先生方の敎授に預り、友人達の經驗や學力に觸れて益々智識を磨く者となりませう、處が怠惰者は獨學も學校も何れをも好みませぬ、時と

しては反つて勉強家を冷評する様な者があります。女子青年會が未だ會として組織立たなかつた以前に。

## 夏期修養會は今より十二年前に

起したものであります。毎年之を東京附近に於て開催し、諸女學校の代表者を集めて一週間共に學び、共に祈り、共に遊ぶの好機會を作りました。扨此十一年間に修養會が如何なる功果を修めたかと問はれますと神の外には確答を答へ得る者はありますまい、未だ其蒔



神戸女學院理科學館

いた種が萠芽しないものさへもありませうし、又漸く芽ざし始めた者もあつて本當の果實がなるのには早過ぎませう、然しながら第一日本全國或は米國邊に散在する姉妹方の中に我修養會に出席したものが中々多いのであります。

## 修養會で作る美はしい友垣

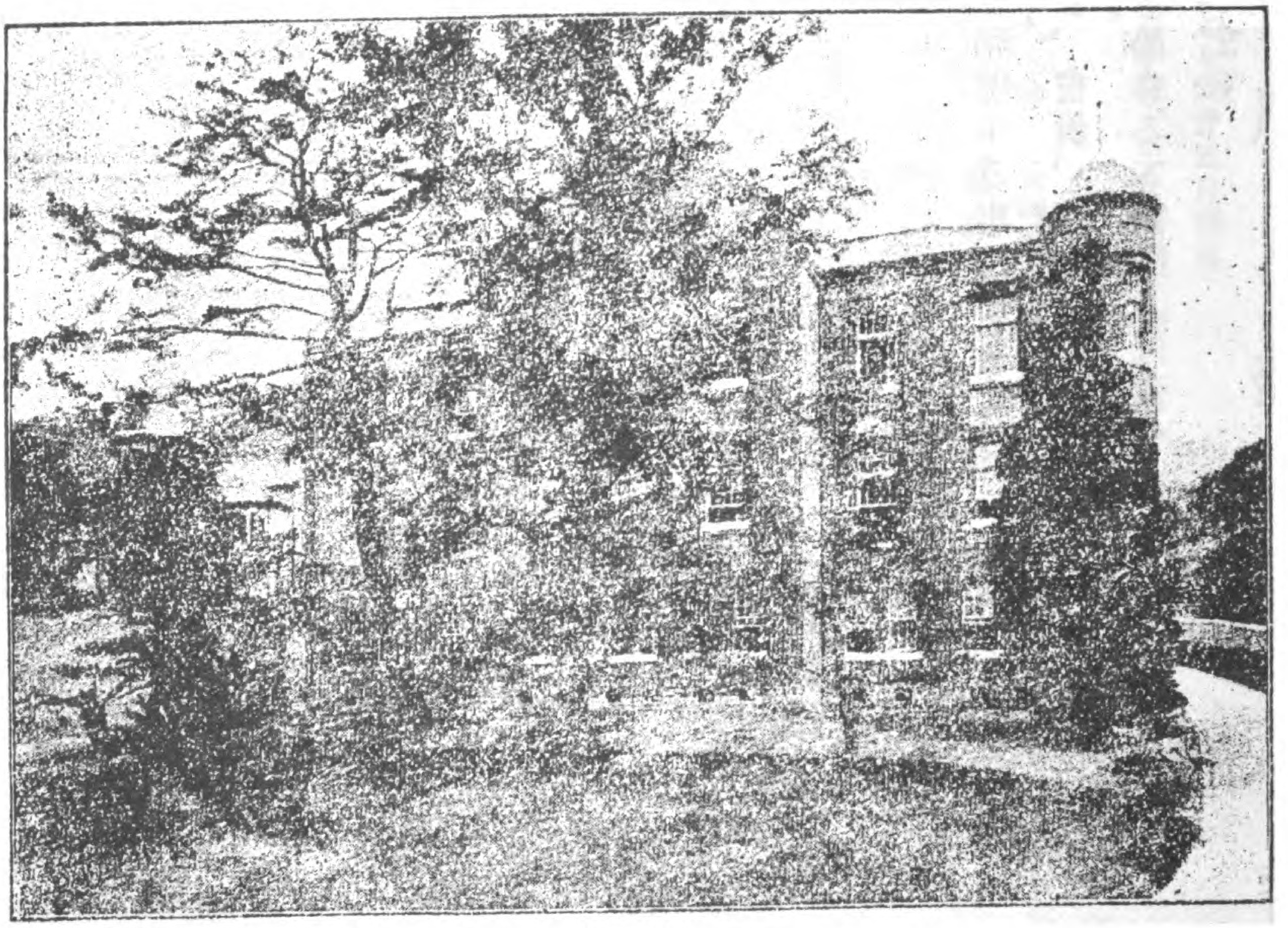
嘗て私が米國加州に旅行して居た時に青山女學院、神戸女學院、女子學院、英和女學校、同志社女學校其他の女學校出身者によく逢

ひまして厚き挨拶を受くる事があります、「貴女は何誰でしたか」と忘れ勝ちな私は問ひますと「私は何回目の修養會に何々學校から出席したのです」と云はれて忽ち嬉しき友情が湧いて來て互に親しく樂しい交際を進めた樣な事が屢々あります。嘗て朝鮮に參りました時、釜山で非常な御世話になつた藏川さく子女史は第一回の修養會に京都より出席された方でありました。又紐育市に滯在中英國倫敦より手紙にて、近々渡米する故出迎を賴むとの依賴をうけたのは矢張修養會で親しくなつた鹽見ぬい子氏でありました、同氏が到着されるとコロンビヤ大學で最初に逢はれた日本女子は岩澤時子氏で、同氏も修養會でお知り合になつた方であつたので直に友として親密な友垣を作られた樣な次第であります。內地でもよく旅行中に突然誰かに聲を掛られ、見れば修養會でお目に掛つた姉妹方である事は往々御座います、のみならず諸學校を卒業後地方に奉職さるゝ姉妹方が誰も知らぬ土地と思つて赴任されると意外にも鵠沼や大津で一週間寢食を共にした他校の卒業生に遭遇ひなどして非常な愉快なる經驗をする事も度々あると聞いて居ります。讀者中にも同じ經驗をされつゝある方も多い事で御座いませう。

## 親しくなれば戰爭は起らない

昨今英米の讀者界に好評を博して居る小說があります、それは戰爭が家庭及人類に來す悲慘な狀態を巧に繪がいたものであります、其中に獨逸の一靑年が戰爭以前に熱心に語學の硏究をしてエスペラントの如き世界語をより以上に立派なものにしようと孜々として勉强して居るのがあります、其理由は「人間といふ者はお互に言葉が通づると親しくなるし、親しくなれば世界に戰爭は起らない」といふのであります。同時に又彼の友人は旅行を樂しみ、その理由も「人間は多く出逢ひ、つき合ば決して戰爭は出來ぬものであると主張して居ります、兎も角何か共

通の事があれば從つて親しみを增し、顏を合せ、言葉を交ふる機が多ければ親しみの增すのは自然の道理であります。況して同じ誠の神を信じ、全ての人々の靈肉の救を希ふ者共が會合する事は、どれ程お互ひの奬勵になる事か分かりませぬ、とかく日本の若き人々は男女を問はず見聞が狹く從つて氣が狹く同情が薄いのであります、只の旅行でさへ見學といふ意味からいへば非常な利益を得るものであります、されば尙更信仰を共にする者共が然かも若き時から樂しい、親しい、



神戸女學院大講堂

眞面目な會合に列せん爲め旅行をする事は冷評や、妬嫉や、轢軋の消失する因であります私は關東の人は是非とも關西、東北の地を知る必要が非常にあり又西部北部の人々も東京附近の女學生を知る必要があると思ひます。故に今度は神戸と仙臺との修養會を開きますには委員は深く此點に注目したのであります。

今回の修養會の成敗は全く會員諸姉の祈禱と同情と努力とに竢つ事多大であります、是を記臆て何卒直接間接に充分の御盡力を願ひます。

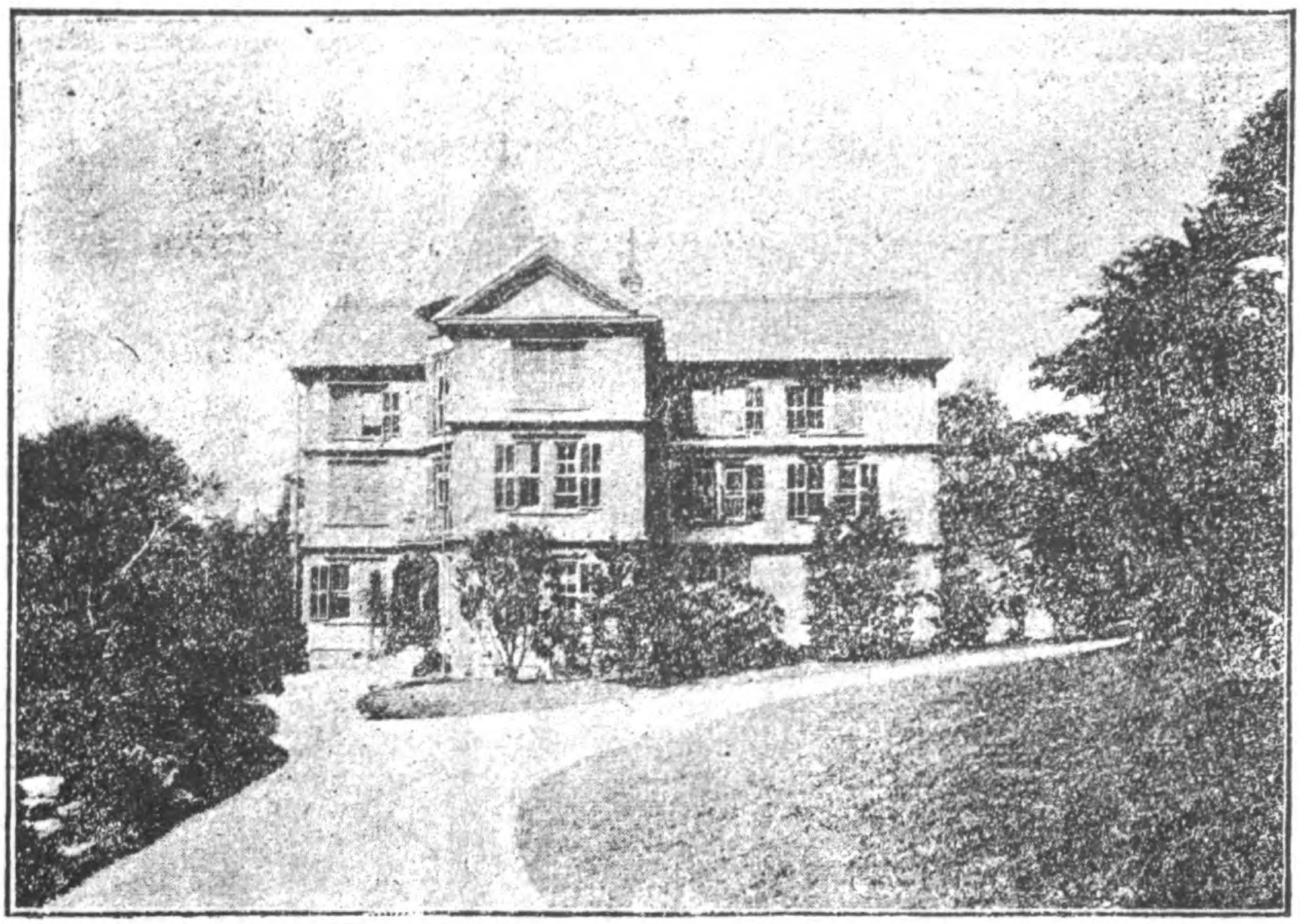
# 日本基督教女子青年會 第十二回夏期修養會

於神戸市 神戸女學院 自大正六年七月十八日夕 至同 七月廿五日朝

於仙臺市 宮城女學校 自大正六年七月廿四日夕 至同 七月卅一日朝

日本基督教女子青年會は例年七月東京に近き勝地を選んで夏期の修養會を開きました、回を重ぬる事十一回毎度多大の功果を收め來りましたが、本年亦近く七月下旬をトして第十二回會合を催し、諸先輩の教導の下に同信諸姉の會合を計ふとして居ります

本年は會の發展に準じ又參會者諸姉の期待に添はむが爲めに、地を東北、關西の二ケ所に選んで右記載の通り各一週間の修養會を開催する事になりました。信者と求道者とを問はず、會員、非會員の別なく基督に依つて眞の生活を求めらるゝ御婦人は奮つて御來會あらむ事を切望致します。



神戸女學院音樂館

# 神戸ノ部

時日　大正六年七月十八日(水)より同廿五日朝迄

場所　神戸市山本通四丁目神戸女學院、三ノ宮驛下車

| | 午前 五時半—六時 早天祈禱會 | 八時—九時 聖書研究 | 九時半—七時 協議會 | 十時半—十一時半 講演 | 午後 晝食後—夕食迄 | 六時半—七時 | 七時半—八時半 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 十八日 | ナシ | | | | | | 開會禮拜司會 星野よし子 |
| 十九日 | | (一)求道者組 長坂鑑次郎氏 (二)ヒリピ書 森波次郎氏 (三)ホゼヤ書 アモス書 青木澄十郎氏 (四)少女組 星野愛子 | 支部役員 委員會 | 解散の福音 日野原善輔氏 | 休憩 | 夕陽會司會者 宮川幹枝子 | 講話「若き人に望む」志立たき子 |
| 二十日 | 司會者 藤田とき子 | 同上 | 支部報告 | 相識の福音 青木澄十郎氏 | 休憩 | | 女子青年會活動 廿粕なべ子 |
| 廿一日 | ナシ | 同上 | 同上 | 自由の理 新渡戸稻造氏 | 親睦會 | 夕陽會司會者 小路チカ子 | 矯風事業 林歌子 |
| 廿二日 | 小池實惠子 | 市内日曜學校及教會等に出席任意 | | | 組會 | 讃美禮拝 | 女子青年會の現在及未來 河井道子 ミスマシウ |
| 廿三日 | 司會者 松宮のぶ子 | 同上 | 質問 | 眞理とは何ぞや 原田助氏 | 遠足 | ナシ | |
| 廿四日 | ナシ | 同上 | 同上 | 問題ノ問題 宮川經輝氏 | 休憩 | 懇談會 河井道子 | |
| 廿五日 | 散會 | | | | | | |

# 仙臺ノ部

**時日**　大正六年七月廿四日(火)夕より同卅一日朝迄

**場所**　仙臺市東三番町宮城女學校内

| | 午前 五時半—六時 | 午前 八時—九時 聖書研究 | 午前 九時半—十時 協議會 | 午前 十時半—十一時半 講演 | 午後 晝食後—夕食迄 | 午後 六時半—七時 | 午後 七時半—八時半 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 廿四日 | ナシ | | | | | | 開會禮拜司會 長谷川きた子 |
| 廿五日 | | (一)求道會 梶原八郎氏 (二)新約 稻垣陽一郎氏 (三)誠戸順子 (四)少女の組 長谷川きた子 | 支部役員 委員會 | 弟子生活に就て 星野光多氏 | 休憩 | 夕陽會司會者 加藤高子 | 品性と宗教 星野光多氏 |
| 廿六日 | 司會者 | 同上 | 支部報告 | 聖書中の鑛物 岩崎重三氏 | 親睦會 | | 有益なりし米國の修養會 岩澤とき子 |
| 廿七日 | | 同上 | 支部報告 | 矢野猪三郎氏 | | 夕陽會司會者 布施とよせ子 | 日本慈善事業 留岡幸助氏 |
| 廿八日 | 司會者 原田ことぢ子 | 同上 | 質問 | 留岡幸助氏 | 遠足 | ナシ | |
| 廿九日 | | | 讃美禮拜 | 眞理と自由 井深梶之助氏 | 組會 | ナシ | 永遠の生命 井深梶之助氏 |
| 卅日 | 司會者 | 同上 | 質問 | 眞理の解放力 稻垣陽一郎氏 | | | |
| 卅一日 | 散會 | | | | | | |

# 富める無知者

牧師　植村正久

路加傳第十二章自十三節二十一節迄にある譬話を讀むと唯物主義の無宗教家を取つて、エスが宗教に志しつゝも、尚それを物質的に考へて居る事柄を警告されたのである。世には宗教を口にしながら其實、只是れを衣食住の潤澤を計る道具に思つて居る者もある。社會主義は決して惡いもののみではないが、基督教を口にして同胞の救を唱へる者の中に實は靈性の事は一も思はず、只此世の事に豐富ならん事を力說する者がある。

此譬話の主人公を見るに、彼は全くの無宗教家で唯物論者で、考へ違ひをやつて居た。彼は靈と物質とを間違へた故に『靈魂よ、多年を過す程の許多の財物を有たれば安心して食飮樂めよ』といひ、次に彼は神と自己とを取違へた、己の腹が神であつて他に何物も知らぬといふ有樣であつた。次に彼は現世と來世とを取違へた、故に自己の爲めに財產を蓄へ、神に就ては富む事を知らなかつた。

今日我々の週圍を顧ると、斯る種類の人は極めて多い事を知る。我等神を信ずると唱ふる者にして斯る同じ間違をやつて居る事は實に慨嘆しい極みである。神なしと唱ふる者が斯る生活をするよりも神ありと唱ふる者が同樣な事をして居るのは一層罪深い事である事を思はねばならぬ。

# 悔改と信仰

牧師　笹倉彌吉

『神に向ひては悔改、主耶蘇基督に向ひては信仰』とはポーロの口癖で、誰にでも話した事である。然し其依て來る處は基督からであつて決してポーロの發明發見ではない。即基督は傳道の始に於て『天國は近付けり悔改めよ』と仰せられた。爾來、傳道者牧師等は皆此悔改と信仰とを骨子として話をしつゝある、若し此二つが徹底するならば、基督教を理解したと云ふべきである。

扨悔ひ改めとは、其字の通り悔ひて改めるのであつて、數百萬の人を集めても其内一人として『我は何も悔ひ改める事がない、心の奥底迄を見給ふ神の前に於て一として愧づる事なし』といへる者はないのである『伏仰天地に愧ぢず、心を顧みて疚しからずといへる人は決してない。然し悔ひて改めるといふのは、何か罪人を捕まへて後から打つ様な感があつて或人々には面白くない言葉に取れるが、ポーロはギリシャの言葉を用ゐて悔ひ改めといふたが其意味は方向を變へるといふ意味である、草木が雨露を受ける方に向く、太陽の光線を受くる方向に向く、木の根が南の方に根を張るといふ様に、我にも天の神の方へ向くといふ方が自然なのである。向を變へるといへばそう誰も嫌に感じない、それで我々は地に向つて居たその向を天に向ける、これが悔ひ改めである。恰かも犬の様に下計りを嗅いで歩き、遺失物を拾ふ様に地の事のみを思ふて齷齪と算盤玉を彈き衣食住に屈托する其向を變へて天を仰ぎ、活ける誠の神を拜す、是即ち悔ひ改といふのである。

此向を變へた人は實に多數あつて、短氣、傲慢、不道徳等の地に就ける情慾を全く振り捨て、忍耐、謙遜、高潔等と變化した實例は限りない事である。

横濱に有名な原田某といふ英漢學者があつて、非常な短氣者であつた、或時乞食が窓から窺いて『彼

の爺、くれそうもない顏をして居る」と獨言いつたのを聞き奮然と追かけて行き其乞食の三味線を引たくり掉を折り、ひどい目に合せた程の人であつた、又其夫人は何時も蠑螺の樣な鐵拳を翁より受けて居たとの事だが、彼六十才にして始めて基督教を信じて悔改た後には非常な溫和なニコ〳〵主義の人となつて、人々にニコ〳〵お爺さんとさへいはるゝ程になつた。或時翁が大事にして居た藤が將に開かふとする時に、惡戯小供連が垣間からこれを取らふとしたが、以前の翁であつたら直に鐵拳でも與へる處であろうに、彼は只言葉柔しく『花が咲いたら上げるから今は取らない方が宜い』といふた位であつた、又其夫人が或日赤飯をこしらへたが水加減をあやまつて非常にこわく出來たので、三度の食事に小言の絶えた事のない經驗より夫人は恐る〳〵赤飯の不出來を詫びた處、翁は欽然として『おこわといふ物はこわい物ぢやないかね』との挨拶で夫人は、これが昔の短氣な主人であつたかと實に驚いた、と感話された。

斯く我々は皆其方向を轉ずるならば凡ての癖を直す事が出來る、誰にも癖といふものがあつて『無くて七癖、あつて四十八癖』といふ位である。是非とも是等を矯正せんとすれば神に向くより道がない。基督を信仰するといふ事は、只基督を萬民の救主だと眞個に信ずる事である。我々はワシントン、ナポレオン、太閤秀吉等の事を聞いて何も疑はない、彼等の事業を聞いて、そうであるか、と感心する。主耶蘇基督が萬民を救ふ爲めに天より下り、命を捨てゝ其事業をなしたといふ事を信ずるはむづかしい事ではない。これを塗り消さうとする人も多いが、是は恰かも太陽を押へ付け樣とする樣なもの、出來ない事である。二千年以來基督が救主であるといふ事を大勢の者が生命を捨てゝ證明して居るではないか、確かに基督を我救主なりと信ずる事はむづかしい事ではなく、又間違つた事ではない、それでポーロの言の如く『我れ神に向ひては悔改、基督に向ひて

は信仰を養ふ」ならば靈魂の救を得るのは必然で、日常生活が一進するのも必然である。

# 我が兄

外村義郎

傳道義會醫院主任、森田八十郎氏の生前を思ふに實に彼が人を靈肉共に救はん事に忠實であつたかといふ事を今更の樣に思ひ出される。

大正三年六月三日未明、彼は神の國に歸つたのであるが、其前日の働を見るに、此醫院にて午前中に六十餘人の患者を扱ひ、午後は大學にて二時間以上を勤め、其から市外の老母を訪れ其誕生日を祝ひ、家に歸りて患者を診察し、又病家を訪問して、夕食を十一時頃に濟したのである。彼は常に夕食を十時十一時頃に取るが例になつてゐたので、自分は食事丈けは一定の時間に取つたら、と度々忠告したが、兄は頭を振り、「否、一方は患者であつて、少しても苦痛を減じてほしいと望んで居るし、我は壯健な者故どうしも患者を待たして食事など出來る物でないといふて居た、それ故に八年間に八萬人以上の患者を扱かひ、然も貧困な者のみである故彼等の日常生活を思ひ、絶えず訪問をして居た、傳道をなすにも講壇から說教をするといふよりも寧ろ、個人的とした、平素無口の方であつたが、時々彼の短かい言葉には非常な力があつた。信濃町に居た頃患者が非常に多く來る日には彼等の薄つぺらな汚穢い下駄が敷居の外、通行路にさへ、たくさんに並ぶのであるが度々その下駄が蹴飛ばされたり、又間違へられたりして騷ぎをするのであつた、或日の事、矢張同樣の騷ぎをやつて居るのを見て、兄は靜かに云ふには、「皆樣失禮ですが、只下駄が見えないといふても大變な騷動をなさいますが、最も大事な靈魂の置場を忘れても平氣で居られるのは悲しい事ではありますまいか」と、此一言で大勢の者が水を打つた樣に靜まり返つたといふ事である。此は一例に過ぎぬが、

彼はキリストに從ひ、靈肉の救を切望して此の爲に一生を神と人とに捧げたのである。

# 人の靈を捕へんには

大阪西部メソヂスト教會牧師　釘宮辰生

基督敎信者は男女に拘はらず、其地位、職業に關せず皆人の靈を捕へる人とならねばならぬ、此大切なる力を持つ時は如何なる時であるかと云ふに。

第一、己れ神に救はれたる事を確信し之を證明する時。第二、神の愛に滿された時。第三、神の者となつた時。第四、聖別された時。第五、聖靈に導かれた時。等是が即、人の靈を捕へ得る時である。

人間は與へれば與へる程人を引付け得る者である故に我等神より與へられし其愛に浴して其愛を他に與へんとする時には、必ず人を引付ける事が出來るそれ故與へ給ふ事多き神に人間が引付けられるのは自然である。十字架につけられた耶蘇が萬民を引付け給ふのも此道理である『我若し擧げられなば、萬民を引きて我に來らせん』との基督の御言葉は大なる眞理である。自己を殺して人を愛する如き其愛に我等が觸れ、そしてこれに依りて人の靈を引付けるといふのは恰かも冷めたい鐵片に電氣が通つて、忽にして其鐵片が熱して凋圍の者を引付けると同様である、故に我等には常に神からの電流が通つて居なければならない、これなくして人の靈を捕へる事は思ひも依らぬ事である、此等を思ふと、神の者になる、聖別される、或は聖靈に導かるゝといふ靈的經驗を獲得するでなくば大なる働は出來ぬものである。



# 女子青年會員の使命

法、農學博士　新渡戸稲造

先女子青年會に對する希望をいふ前に青年會の性質に付大略述べ度と思ふ。此青年といふ字は支那より來たもので日本には餘り用ひられて居なかつた。私の小供時代には普通社會で若衆といつて男の事であつた、青年なる詞は萬事法律制度で定める宗の時代に十四五歳より二十歳前後の人は青い衣服を着る定であつた故青年といふ、昔其等の若衆達が集まる即ち此が青年會であつた。其會では必ず馬鹿騒をする習慣で向上的の目的を持て集る事等なく武士が天神様の日に集り本を讀む位のものであつた。日本に於て明治十年頃小崎氏、植村氏等が京橋に基督教青年會なるものを起したのが其初である、今日の青年會は若衆の集と異り凡て向上を目的として居る、昔の若衆の集りと異つて今日の青年會は高尚なものになつた、どこでも若い人達が集ると青年會といふ、これは男子である。

今日では基督教の思想が世の中より一歩進んで居る、進んで居るものは必ず世の中から批評される、云はれゝばこそ進むのである。

基督教女子青年會の性質は何處に在るか、即ち此二つである、これは基督教女子青年會の精神といふべきものであつて會員たる者は凡て之を心得なければならぬ、第一、人格の養成、この言葉も日本では新らしいのである、よく用ゐる言葉ではあるが人格といふ言葉も世の中では其意味をよく知つて居る人は少ない、人格とは言葉を換へて云へば人の人たる所以といふものである。

やゝもすると會に入ると人格を失つて仕舞ふ人が

ある、これは凡ての事を會に任せて仕舞からで、私のする事ではない、會のする事であると云ふ様になる時には思想迄失ない、又自由を失ふのである。處が人には人として他人と異る他人の眞似の出來ない處がある、即異なりたる使命を持つて居るのである、よく「私は女だから出來ない」といふ、私は、「女ではない人である、今日の我國の教育は女を人として教育しない、即ち人といふ事を教へて居らない、妻とか母とかになるのであるといふて男子の附屬品となる様に教へる、女は動物に近いものでもあるといふて居る、かゝる教育を受けた女子には人格といふ感が少ない、只日本の忠良なる臣民であるといふ事の外に世界に活歩する女であるといふ觀念がない、一個の人間である、といふ觀念が無いから他に對して爲す事が虛僞になり易い。他に付いて行けばよいといふので責任の感がないのである、人格といふ感がないからお互に胸襟を開いて話すといふ様な事もなくお互に疑ひ、僻む様になる、彼れも人、我も人、階級は異なれども人としては同じである、金持ちとか、位階があるとかはこれ附屬品である、この附屬物を良いとか偉いとか思つて頭を下げる様になるのは人格を無視して居るからである、エマーソンが子供の話にでも耳を傾けて聞いたのをある人が「あんな立派な方でも子供の話に耳を傾ける」といふて不思議に思ひ聞いて見ると、エマーソンは答へて、

「人は誰も或異なつた何物かを持つて居る、故に子供からでも何物かを得る事が出來る。」

人格は基督が此世にお生れになつて以來一層此世に明かになつて來た。基督は「汝の欲する處を人に施こせ」孔子は「汝の欲せざる處を人に施す勿れ」といつて居るが此兩言には非常な差がある、孔子の意味は結構であるが、消極的で即引込み思案である、溝へ落ちる仲間である、之は人といふ意味がせまく解釋せられてある、其證據には支那には一夫多妻といふ事がある、之は男子には極めて便利であるが、女子に對しては一婦多夫を好まない、即男の欲しな

い事を女はしてはならないといふ意である、人格といへで性の區別がない、人格あればこそ自由である、人格なくては放逸に流れ、危險極まる、故に青年會員たるものは人格を尊重する事を學ばねばならぬ。

第二　基督教に於て特に標望して居る事は、自己の爲でなく他人の爲めに働くといふ事である、即如何にしたら人の助けになり、爲めになるかといふ事で然も人に恩を懸けないといふ事が本底である、よく人の爲に何かすると、あれ程までしてやつた、にと直ぐ迄°といふ字をつける、自己が飲み度い時には何處迄も一杯の水を取りに行く、處が氣に向かぬ人には澁茶一杯でもよい顏しない、これは基督教に反した事である、世の中は戰爭である殺風景であるといふがそれは間違で、廣き意味に於て此世の中は聖き物である、如何にしたら人を助け、人を活かす事が出來るかといふて互に調和的態度を持つて居る、一番嬉しいと思ふ事は人から同情をうける事であつて、金をもらつた事よりも嬉しい、如何に金持でも地位ある人でも孤獨は淋しい。キリストは世の中の苦しきものは皆我に來れと仰せられた、我々は互に同情惻隱の心を持つて結び合ひ、人格を尊重して如何にしたら他人の爲めになる事が出來るであらうかと考へて世を送り度と思ふ、これが女子青年會員の使命ではあるまいか。

○我等神なくして何事もなし能はざると等しく、神も我等の手を待ちて其御旨を行なひ給ふ。

○閉ざせる門は人是に入るに由なし、閉ぢたる心には神と雖も入る事能はず。

○祈禱は神に何物かを强請せんが爲めにあらずして神の其爲さんとし給ふ處の御旨を伺ふ爲めなり。

# 約翰傳の研究法（二）

神學博士　オルトマン

聖書研究法は研究者の性質及目的に從ひ其方法を異にすると同時に研究する書面の性質によりて自違ふは當然の事なり、約翰傳は他の福音書に比し特色多き故種々の研究法あり今其特性に適合せる方法を二三述べん。

一、沈思の精神最も大切なり。これ約翰が他の弟子より優れて神秘的人物なる事を示す。此書に限らず如何なる書を繙くにも約翰が其傳を記しゝ精神を以て研究する事必要なり。凡て人間として此世に生れたる者には幾分なりとも沈思の特質を有するものなれば此を修養し鍛練し増加して初めて目に立つものなり、例へば約翰傳一章二節を不注意に讀まば只「道」とあるのみにて何の得る處なし之を靜に深く考へてこそ其「道」は何を指し誰を意味するや了解する事を得。畫工の眞の美を認る人は彼の心を了解する人のみなり、故に我等約翰の福音書を理解せんと思はゞ熟考に如はなし。早朝靜肅なる所にて研究する最も必要なり。

二、約翰傳に記載されし人物を題とす。約翰傳は他に比して人物的福音書なり、彼等が基督に接して如何に感化され導れしかを覺え其より湧出る主の教を認め我々も昔の人の如く主自身の御顔を拜し得るものなり。主が井戸の邊にてサマリヤの女に靈を充たし、夕靜なる時ニコデモに新に生る秘密を明し、生來の瞽者に自然界を見させマルタとマリヤの憂し心を捨てゝ蘇と生命の望を充たしエス又最後の聖餐

式に於ける基督の其教を明にす。かく多くの人物を示す中にも彼等を導き感化されし基督自身を富士の如く高く表示す。

三、主基督を題とす。此れ實に本章に對する最上法なり、何となれば約翰傳は基督自身の詞の記事にして神の國に付ての教訓にあらず其國の王たる基督自身の教訓なり、即ち馬太、馬可、路加傳は神の王國に對する記事にて約翰傳は王に付ての記事なり、本傳の奇蹟をみるに他より一層基督の人物を表現し、而して彼が神の子なる事を示すは約翰傳のみ、他巻にも蘇の奇蹟はあれど本傳の如く直接基督を示す事なし、即ち「我は羊飼なり」「眞の葡萄樹」「我は生命のパンなり」とて眞に基督其者を表示す、自顯的なり終局の目的は父なる神を現はすにあり、基督が「我を見し者は父を見しなり」との詞を發する理なり、自顯的なりとの詞に對し約翰傳を概略すれば左の如し一章、道肉體となり榮を現す、即エス、二章、權利の有るエス、三章、靈的顯示及天よりの證なるエス四章、人の心の奥を探り靈の渇望せし生命を救ふエス、五章、人の病を癒すエス、六章、自然界にも亦世人に對しても力あるエス、七章、ユダヤの論題及生命の永なるエス、八章、理深き救主又神の眞理を示すエス、九章、瞽に知覺を與へしエス、十章、眞の生命を與へ信ぜぬユダヤ人に對して躓の石なるエス、十一章、蘇生生命を現せるエス、十二章、眞の救主、イスラエルの王なるエス、十三章、獻身的なるエス、十四章、弟子達に眞理を示すエス、十五章眞の葡萄樹なるエス、十六章、不在なれど常に弟子と共なるエス、十七章、愛なるエス、次に十八章より終は他巻と同じ。

斯の如く各章を通じてエスを中心として彼の各方面を顯示せるを見るべし。

# 活動多き私の周圍

トロント大學　阪本花代

戰爭の爲め學期はちゞめられ、四月末に學年試驗を終り、五月一日より暑中休暇になりました、試驗後學生は事務員となり、田舍の小學校の敎師（西の方では人が少ないので田舍では小學校の先生が不足の爲め夏のみ開く事となつて居ります）となり、軍需品製造所に、農園に行つて働くなど皆それ〴〵働に就き、家でゆつくり遊んで居る樣な人は誠に少なう御座います。國家多端の折柄故、斯る風習なのかは知りませぬが、働をいとはぬ點は實に美しいと思ひました。私も五月一日より當市の衛生事業につき研究致して居ります、慈善事業なども此中に含まれて居りますので範圍は中々廣く、前週は市役所の衛生試驗所にて牛乳の試驗など見ました、この邊の農家から當市に牛乳を送り、壹百に近い市內のデーリーで淸められ、農家もこれ等のデーリーも嚴しい檢査をいつも受けて居りますので私共は安心して牛乳やアイスクリームが頂ける譯です。

本週は看護婦達の事業を見んとて看護婦さんの御供をして家庭を訪問致しました、澤山の家族中には家の樣子も種々にて夫が戰死し三人の子供を連れて途方にくれて居る御內儀さん、四人の子供を失ひ憂に沈める黑人の婦人、病身な子を連れ自らも疲勞せる樣子にてパンの高價なるをかこつお內儀さん、肺を病み、先頃やつと病院を出でし許りでもパンの爲めに頰をほんのり赤らめながら、コツ〳〵靴を直すユダヤ人、背虫で頸の邊に病を持つ老婦人、其身の

上も違ふ如くに家の様も種々にて多くは貧民、さつぱりせるもあり、隨分墓所など取り亂せるもあり、これは皆私の記臆に殘れる家の様を書いたのみですが、もしも緻密な觀察眼を持つ人が見たならば、面白い、美しい小説もこの中から編出される事とアンズリーホールの私共の寮舍生活から斯様な中へ來て見ると、眞に世の中に寄せつ、歸りつする人生の波風を味ひ得た様な心地が致します、小兒は何れも可愛らしく貧民の子供もニコ〳〵と笑ひ、今朝も託兒所を參觀致しました、小學校に通つて居る小供等は晝食に歸るとの事にて私共の見たのは赤兒と小さい子供、幼稚園(託兒所の一室は幼稚園の爲めに用ひられ二十一人の子供は二組に分けられ一人の保姆が敎へて居ります)計りでしたが赤兒と申しても生れた計りの子供ではなく、やつと歩ける位の子供もあつた樣に思ひます、眼をくる〳〵とさせて居る十七人の子供、眞に可愛らしくて人形屋に參りました様な心地が致しました、二階の小さい子供の室に行くと、その組は十八人餘りで兄様、姉様といふ様な格私共を見るとハローと聲をかけます、私がこの週に參觀したのは僅にほんの當市衞生課の事業の一小部分にて、本月中は今猶參觀に費さねばならないと思つて居ります。當市はこの衞生課の事業の爲め毎年三十萬弗宛を支出致し、この費用は各方面の爲めに使用せられ、看護婦養成、夏期に開かるゝ貧民兒童の爲め林間學校、肺病患者の爲めの病院二、肺病患者の子供が壯健に發育する爲めにと設けられし衞生園一、其外貧民が病氣に患りし際はかく一弗づゝ支給し看護婦をして病家を訪問させるなど衞生試驗所の働と共に重なる働です、移民の多い當市の如きは斯様な働は非常に大切な事と思ひます、當市の人口は五十萬、然してこの市役所の看護婦達の働きは四區に分かれて居て其種類は、

晝間託兒所　四ヶ所

この家庭ならば兒童を預けても差支なしと公に認められて居る家庭、九十戸、親一週三弗づゝ拂ふ由、

赤兒診察所　二十一ヶ所
肺病診察所　四ヶ所
百日咳診察所　一ヶ所

貧民若しくは少しく御金はあつても世話をして與れる者がなくて困つて居る病人は、友人とて移民間に働いて居る人或は敎會の訪問員の人々より市役所内の看護婦の方に住所姓名病狀を知らせ早速醫者看護婦を遣はすといふ樣な組織にて無論、貧民が多くて市のお助を受ける樣では困りますが、弱き貧しき者を助けるといふのは誠に美しい事と思ひます。

私共が常にミス、アデツンから聞く事は、大學の敎育を受けたからとて働を厭ふ樣ではだめ、平民主義を持つて弱い貧しい者の爲めに働け、と朝の聖書の組で「使徒の道」を研究しながら敎へられます、富者の爲めに働く事は多く人が喜んで其仕事に就くけれど、眞に貧しく弱き者の爲めに働く事は人が多く好まぬ樣な傾向があります、然しこれこそ基督に從ふ者のふむべき道であると思はれます、西洋の善き働きの多くは淸き基督者に依つてなされて居る事を記臆致し度と思ひます。西洋にても眞に基督の御精神を慕ひ奉る人許ではなく、けれど私は眞に美しい處計りを學んで歸り度いと思つて居ります、私の海外生活が無意味な物とならない樣に澤山なお土產を持つて歸り度く存じます、種々な人に接して色々な印象を與へられますがいつも慕はしく思ふは、靈なる人、基督を愛する人で御座ひます、其人には例へ一度しか逢はないでも美しい印象を與へられ、はげまされます。

昨晩敎會で日本の敎育に就てお話を致しました處敎育の普及と基督敎の普及と、五十年以來何れが早いかとの質問に逢ひました、私の考としては、基督敎の普及は遲いと思ふ、それは日本は地味豐かなる國、天より財を惠まれ、國民は快活、樂天的で靈の問題を考へる人は誠に少なく、君國に忠なると同時に祖先崇拜の國、祖先と宗旨を同じくし度いといふ精神から基督の敎を受けず、洗禮を受けるに至らぬ人

もあり、若し是等の人々が決心して眞の信者となるならば美しい強い信者になる事と信ずるといふ様に申しておきました。斯る問題に關しては先生方の御意見が伺ひ度と思ひます、教育及社會事業方面に於て此度の大戰爭に依つて改良せらるゝ點は誠に多いと思はれます、又新しく發展する點も大にあるべき事と信じます、殊に先日某教師が大會に於ての演說にこの度の戰爭に依り從來英國教育の科學に重を置かなかつた缺點が現はれてきた、文藝に重きを置きし英國の諸大家の教授方の口より今後は文藝と同時に科學を盛にせよと、稱導さるゝ世の中となり今後の國民教育は科學、文藝共に授けて完全なる人物を造らざるべからずと、當大學の諸教授連は述べられました、當市の高等女學校は餘程天才的の教育を施して居ります、大學にて家政科に入つて居る人は大抵女學校時代に二年位づゝ餘程專問的に物理、化學等を研究せし人々にて、此中で女學校の時代は遠き昔となつた私が何の準備もなく飛び込みました事故はづかし事の多いは最もの事、自分の思慮のなかつた事、めくら蛇の様に大膽といはうか、自分で自分がおかしくなります、私は當國の頭腦明晰なる人達の科學思想の豊かなるに感服して居りますが、この上科學教育を授けられたならば如何になる事かと、日本の女子もうつかりしては居られなくなつて參りまして、大に向上心を持つて發展して頂き度いと思ひます、此度の戰爭に依りて日本の國に入るお金は非常に多いと聞きますが、只目を喜ばす帶や着物など慰み物と變る許りでは何等得る處もなく智に於ても德に於ても世界の大國民として他の國の御方々と提供して行く國民となり度いと思ひます。いつも私の様ではちと目方が輕いとひや〳〵する事が度々あります、田舍に靜かに暮して居た私は感ずる事と驚く事に誠にせはしく、自分の失敗は失敗として大に後進者の爲めに談し度いと思ひます。當夏は日本で修養會が二ケ所に開かるゝよし、美はしい松島や、須磨、舞子の御近く、多くの姉妹方の御出席の程を遙かに祈つて居ります。

# 夏の題 十首

海上龍子

梅雨

ぬれて散る軒端の栗の花の香も
　いぶせく思ふ梅雨の頃

梅雨久

照ると見し月も笠きて明日さへも
　そらだのめなる梅雨のころ

川梅雨

岩魚とる梁もくづれて谷川の
　瀬浪さかまく梅雨のころ

撫子

外國のあたなる花にまじりても
　色香ことなる大和なでしこ

紫陽花

おのがじゝ日をふるまゝに色かへて
　盛やつきぬあぢさゐのはな

新竹

たゞしかる親の敎か生たちて
　草木には似ぬ庭の若竹

雨後夏月

夕立の名殘とゞめしにはたつみ
　思はぬかたに月ぞやどれる

夏月易明

心あての雲より上にあらはれて
　中空高く月ぞしらめる

遣水にうつれる影を結びあげて
　月も手にとる夕涼みかな

暑

我門のねふの花さく夏の日の
　暑さ盛は風だにもなし

心

いつはらぬ人の心の眞白玉
　てりとほらざるくまやなからむ

# 私の敬服する婦人

松岡鎮枝

人間は生活をするのに一家の中でも常に喜んで滿足と感謝で暮して居るといふ事は、自分が氣持よいのみならず、一家内の者、延いては社會全體に非常によい影響を與へる物だと思ひます、例へば一つの花を活けましても其花の中の一本が凋んで居りますと全體が見苦しく見えて觀る人に不快な感を與へます、それと反對にたとへ不幸な境遇に居らるゝ方でも勇氣と忍耐を以て困難に打勝ち、常に愉快に暮して居らるゝのは、御自分は元より接する人々によい感化を與へるものであります。

私の友人の中にも不幸な境遇に居らるゝにも拘はらず、常に困難に堪えて、元氣に滿ちて暮して居らるゝ感心な方々が御座います、學校の同級會などへ參りましても逆境に沈んで居らるゝ方の前では、順境に居ります者は非常に遠慮に思ふ事も御座いますが、其方々が反つて勇氣に滿ちて愉快にして居られるのを見ますと、氣兼なしに打解けて御話が出來るのみならず、非常に教らるゝ事が多いのを感じます。

私の常に敬服して居ります方の一人は、某新聞の主筆をして居られた故某氏の御夫人です、此方が在學中は同級生中のいつも首席で又人格も高く、人々の尊敬の的となつて居られました、卒業後某氏に御嫁ぎになりましたが、祖母様や、御姑様、御伯母様とそれに御病身の弟様のおありなさる中を十八年間もよく是等の人々に獻身的に御盡しになりました。十八年間と一口に申しますが隨分永い年月を物見遊山は勿論の事、三越にさへ一度も足踏もしないで、中風

症に罹つて居らる丶祖母様や姑様の看護に務められましたそれで是等の人々も皆夫人の誠意に感じ、實の娘ともたとへ様のない程信頼して居られましたが次々と皆夫人の眞意を感謝しつ丶此等の方々が此世を御去りになりました、それで夫人も今迄は家事に追はれつ丶病人の世話にのみに盡して忙しくして居られたが、是から眞個に自分の家の爲めに盡さうと思つて居られた矢先、非常に高い御人格で親孝行で在られた御主人は母君が逝去になつてから三十五日目に急にお死去になりました。これから御主人は一層御自身もまた充分に力を延ばさうといふ時に急に御主人がおなくなりになつたのでから鳥が兩翼をもがれた様に非常に悲嘆に沈んで居られましたが、それでも普通の人の様に少しも取亂した様子なく、今は四人の遺兒を立派に育て丶、誠に淸い高い處を結びつけた立派な御夫婦關係の思ひ出に幸福に質實に暮して居られます、常に同級會にも此頃は御出席でいつ御目にか丶つても愉快に御見受致します。自分の逆境を嘆いて不愉快な月日を送つて居らるべき人が反つて置かれた境遇に感謝して愉快に其本分を盡して居られるのを見ますと敬服致さぬ譯には行きませぬ、私は或時「貴女は實におゑらい方だ」と申しますと、夫人は「ゑらいのではない、外へ出て新智識をうくべき時に家に引込んで居つたのは境遇がそうしたので、病人を置いて家を明けるに忍びなかつた故にそうしたのです、又主人が死去致してからもなき人の遺徳に依り子供達を教育して行かれるのは實に有難い事で、常に感謝して其日を送つて居ます」と申されました。

　私共は種々境遇が違ひます、或人は得意の境遇に居り、或者は失意の狀態に居ります、併し如何なる狀態にあつても感謝することの出來ないといふ境遇はないと思ひます。野を飾つて居ります草木にいたしましても千歳を經たといふやうな松もありませうし、又小さな蓮華草も御座います、これらの物が皆自己の力一ぱいに其花を咲かせ、葉を茂らせてこそ

野原が美しくなるのであります、其中の一つが枯れても其物が見苦しくなるのみならず、其週圍全體を見苦しく致します、例へ小さな蓮華草でも神から與へられた職分は持つて居ります、それを盡さずに凋んで居ては何の役にも立たぬ計でなく、他の物の邪魔になります。小さいからとて松の大木に媚びる必要もない、只與へられたる處に感謝して其天分を全うして居れば自ら社會人類の爲めに盡して居る事になるのでありませう。社會を美しくするには各個人個人が神の命じ給ふ處を充分に、喜んで力を盡して爲すに在ります、これは私共世に生存する者に取つて最も大切な事と思ひます。（文責記者）

# セールの聖フランシスより

森田松榮 譯

## 一 婦人への手紙

御許樣は、父上の御病氣の爲、心配しをらるゝにはあらずやと存候。誠に我等は、此世の生は我等が永生に達し得んためにのみ、我らに與へられをるてふ教訓を學ぶ要これあり候。これを忘れ候ために我等は、我らの愛情をばこの過ぎゆく世のものにおき、世を去らざる可らざる時がまゐり候時、一樣に驚き怖るゝことに候。

愛子よ、まことに、若しわれ等はこの巡禮をば、滿足して果さんとならば、常に我等の眼前にある、われらの眞の家郷へ、至りつくべき希望を抱きをらざるべからず候。さらずば、我等は絶へず停まりをるべく候。神は我らを彼へ召したまひ、我らが行くを目守りたまひ、何事にても眞に我らの益となるも

の〻外は起ることを許し玉はず候。神は我らの何なるかを知り居られ候、されば我らが険阻なる場所へまゐり候ときには、我らがつまづかぬやう、聖父のみ手もてつねに我らを支へ玉ふべく候。されどこのみ恵にかなふやう、我らは神に絶對の信頼が肝要に候。

人生の變化や、偶然の出來事を、恐怖もて待ち玉ふべからず、寧ろ、それ等が起り來るにつれて、われ等の神は、其等よりわれ等を救ひ出したまはんとの、全き希望を以て、其等に臨まれたく候。神は今迄、御許様を保ち玉ひしに候、唯、神の愛のみ手に、固くすがられたく、さすれば、神は萬事に、無事に御許様を導き玉ふべく候、御許様が立ち得ざるときには、神は聖腕に御許様を抱き玉ふべく候。我子よ、御許様が神のものなることを憶ひ、神は『すべての事は、神を愛するもの〻爲に、悉くはたらきて益を爲す』とのたまひしことを憶はれなば、何の怖る〻要が候ふべき。明日は何事か起り來らんなど、取越苦勞はなさるまじく候、今日御身のために心を用ひたまふ、永久に在ます同じ聖父は、明日も又いつの日も、御身をまもり玉ふべく候。神は、なやみの上より御身をまもりたまふか、然らずば、御身がそれに耐え得る確乎たる力をたまはるべく候。されば安んぜられよ、一切の憂はしき思ひと、想像とを打すて〻、絶へず云ひたまふべし。

『主はわが力なり、わが盾なり、
わが心これにより頼みたれば、我たすけを得たり』

聖主はたゞに我とゝもに在し玉ふのみならず、我に在し、我等は聖主に居ることに候。

か〻る聖父の御腕に抱かれ居るとき、子は何か怖る〻ことの候ふべき。眞に子のごとくあられよ。御身は、稚兒等が取越苦勞をせざることを知り居られ候、彼等はそれを人にまかせ、父の傍に居る間は、全く滿足いたし居り候。わが愛子よ、さ爲られたく、さすれば、心安らかに居らるべく候。アメン

# 富士山に登る

窪田清子

大正五年八月二日發五日歸甲致しました、一行十九人の婦人中には四十歳位の夫人もあれば、十二三歳位の御嬢さんもあり。

二日富士川の急流を下り、其夜は大宮に一泊して、三日の朝は、夜もいまだ明やらぬ中から、一行は旅裝輕々しく登山の途につく。

夜はほの〴〵と明けはなれ、紺紫の芙蓉の峰は、朝日に輝きて、紅紫となり、薔薇色となり、やがて、おつとりとしたる茶褐色と移り變り行く、色彩の美は私共の筆の遠くなる程の美しさでした。

裾野の原は秋草咲き亂れ、鮮なる色に匂うておりました。二合目で晝餉をしたゝめる。

九十九折の坂路はいよ〳〵けわしく、風に折れ、雪にたをれた大木は幹のみ殘して灰色となり、木乃伊の樣に所々に散在して居り、高山の凄愴を語って居ります。時々やさしい老鶯の聲がきこえる。

五合目以上となれば、すつかり山の容も、巖の色も趣きを變へ、路は爛沙漸く大になり、草木矮少となり、幾千年來の風雪に冒されし這松は川なりに這い附た樣に、綠の枝をさしのばしております。

六合目で、一行はしばらく休憩。觀れば遠く駿河灣のかなた、蒼茫たる海原に、銀のようの雲の悠々と流れ行く影さながら氷山の浮くが如く、雄渾のながめでした。

七八合目の間はなか〳〵骨が折れます。其夜の旅舍と決つた、八合目に着いた時は、たそがれ時。よほど溫度が下つておるさうです。

　夏なれど峰の白雪消えやらで
　　ふく風さむし富士の高嶺は

こゝで、記念の撮影をいたしまして。夕食後雲上の夜の眺望はどんなであらうと、只一人そつと室をぬけいで、巖の角に立つと、夜氣は靜かに、岳の影は墨よりも黑く、仰げば四日の月は峰にかゝつて光

が青く、影が淋しい。たゞ一面の雲の海にとざされて、天地は眠るが如く、見渡す限り漂渺としてきわまりなく、はるかにみる、伊豆の島のあたりに星一つ怪光を放つて流れ行つた後は、一しほの淋しさを感じました。

陋い石室の一夜は窮屈な不自由の宿りである。しかし之を忍ばねば、雲の海の奇觀を仰ぐことはできぬ。四日の朝は、朝食後室外にいで、巖に跪して、來光を待つていたが、あやにくや、其の日は雲が厚くて、遂に美しい朝暾のかげが觀られません。

此所から山頂までが名にしをふ胸突八丁。仰くと、崢嶸たる絶頂は青天と連り、俯ふせば千仞の絶壁斜に走りつゝ白雲にかくれ、路は奇巖怪石の間路もないところを人の草鞋のあとを拾ひ〳〵通るのである。

頂上の氣象は下界では豫測できません。萬年雪も此邊で見る。

此朝天候にはかに變り、颶風はげしく吹きすさび、千仞の谷底より漠々として湧き上る霧は岩にくづれ風に亂れて、倏ち咫尺をべんぜず。着てゐる衣は雨雫と濡れ、金剛杖を握つた手先は凍えて歩調もあやしくみだれ、折からの嵐に吹き落されようとしたことも幾度か、やつとのことで頂上につく。一行中一人の落伍者もなく、のこらず頂上に着いた時は、午前七時ころ。溫度は四十度を下つて、寒さきびしいまゝに、焚火をせうとしたが薪はなく、炭はあれども濕つてなか〳〵火にならず、ふるへながら午後の三時頃まで居る。

晴間をみて一行は撮影をなし、噴火口のまわりなる銀明水金明水を經て、歸り途は吉田方面に下りる。其夜は五合目に一泊、五日の朝は復天日を仰ぐことを得ました。

三五合の間は盆栽風の古木にとみ、神代よりむし重なりたりとおぼしき蘚苔のみどり、石楠花車百合など綠樹の間を彩りて美しく一行のめをひく。

一合目の御胎内には入つては肋骨の岩、孔の岩、冑の岩、氣道の岩などそれ〴〵の形した狹い穴の中

を膝に草鞋をつけ、手に燈火を持して、辛うじて這行す。此處で安産の守札が出るとはどうでせう。
吉田の淺間神社の廣間を拜借して最後の撮影をなし、大月まで馬車、夫から汽車にて夜八時すぎ甲府驛へ着致しました。
登山は雨にあいますのが一番おそろしいときゝます。とにかく今は其も氣象を觀測してから登ればよく。雲上の旅もさほど苦しくないと思いました。
たゞ水の不自由には懲々する。山上にては水は時として酒よりも高價につくことがあるときいては、水は寶石よりも尊いと今さらながら思いました。

## 火事に遇ひての感謝

米澤　上野とし子

五月廿二日午前十時頃當市の一隅に出火ありし處折柄の大風にて大火となり、女學校は勿論私共の宿も類燒にあひ、午後三時頃迄に米澤市が全部燒き拂はれし如き思ひ致し候、何物も持ち出す考もなく、只一卷の聖書を懷にして例の裾細を穿き、手拭を被りし儘活動致し候。火の移り如何にも早く學校の書類も全部燒き盡され候、不思議にも私の夜具など遠方の生徒が何時の間にか出し呉れ候爲め助かり感謝致し候。相浦氏方に避難致し候に家族一同多大の歡迎を與へ下され其夜は安らかに眠りに就く事を得しは神の守りと涙ながらに詩篇など讀み感謝致し候、一日中ポンプ汲やら種々の荒仕事をなし、火の中をくぐり働き候ひしが、斯く働き得る力を賜ひし神に感謝致し候、凡て書類、紀念品、雜具等燒き拂ひ、これより新たに生きんが爲め神の與へ給ひしこの試練を感謝致し候。其後は毎日半日は學校の假事務所に出で其余は類燒にあひし生徒訪問に歩き候罹災者の樣は眞に同情に堪えず候、百十五軒も類燒した生徒中には色々の者あり、途中で泣き付かれ候時には誠に可愛らしき子供等のみにて、共に泣く事屢々に御座候、私は實に幸福なる者と存じ候、斯く不自由

の中に自由を見出して神の御恩寵に浴し、師や友人等の眞心よりの同情を受け毎日感謝の中に暮し居り候、何卒斯る感謝の經驗ある身は生徒等の慰め人となり度く行ふべき事云ふべき事を敎へ給へと祈りつゝ暮し居り候。火事に遇てより反つて何物も入らぬ如き心地致し少にても人々に與へ喜びを倍する此經驗を感謝致し候、今日になりて、敎育を受けさせ與れし親、敎をたまひし諸先生方に對し有難く御禮申居り候、其上此土地に斯る時機に遣はされし事を感謝致し候。「我ら彼に依り、信仰に依りて今居る處の恩に入る事を得、且神の榮を望で欣喜をなすたゞこれのみならず患難にも欣喜をなせり、そは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生じ希望は羞を來らせざるを知る、こは我儕に賜ふ所の聖靈によりて神の愛我儕の心にそゝげばなり」と、今朝何心なくあてなく開き候聖書の中より此數節を得候、これ即ち火事後の私の感謝氣分を其まゝに現はされし如くに嬉しくて一入感謝と力に滿たされ申候。去る日相浦つぎ子樣耶敎會に加はられマキム監督より按手禮を捧げられ一同大喜び致し候當地にては先日の大火にて佛壇を燒失したとて悲しむ人々多き中に、燒失出來ぬ信仰の中に日々暮しつゝ少しの悲しみも苦病も感ぜぬ程手柄に御恩惠に滿てる私共の生活は人々の思ひもよらぬ事と存じ候、辛苦艱難にある人々にこの惠みを配け與へなば勿體なき事と存じ候。學校は六月十二日より始業いたし候へども何から何迄燒失致せし事故寺小屋式にて誠に生徒等に相對す時氣の毒に堪えず候、それ故尙一倍の元氣を以て悲しむ彼等の爲め盡し度く心掛け居り候。

## ウヰットリア・コロンナ

林靜太譯

是れぞ實に夫婦が共に地上に送つた最後の日となつた、とは素より神ならぬ身の知る由も無い。され

どヴヰツトリアは其時其別れには萬感交至つて泣くに泣かれず、離愁具さに嘗めたのである。

千五百二十一年の十二月一日、レオ十世は崩じた。在位中に於ける王が美術の奬勵や、ローマに聖ペテロ再建の熱心は、引いてイタリーの平和及文化に貢獻することと大であつた。其繼位者たる、ハドリアン法王も亦平和政策の實行に努めた。すなはち王は、今より三年間基督教遵奉の諸君主間に侵略を禁ずるの一の勅令を發布した。然るにフランスは敢て是に反して、戰爭を以てイタリーに見ゆるに及んだのである。

此時此度皇軍の將として、フランセスコは、兵馬倥偬の間に當年を過した。成功と、榮譽と、而して名聲とは一戰に擧り一役に加はつた。此豪勇はヴヰツトリアのやさしい愛着に慣ひした。雖然、其敵に對する行爲の慘酷無悲慈なることに於て、彼には其例が乏しくなかつた。嘗てコモに於て、其地の住民に向つて投降せば、慈惠を垂れ與ふべしと約し乍ら、一度降り來るや彼は忽ちにして此地をば、殺戮と劫掠とのいはゆる修羅の衢と化せしめた。要するに弱者賤民に對して彼は極めて無慈悲であつた。而も玆に豁達大量に出でた一例外とも稱すべき美事もある。即ちパヴヰアの役後、彼は偶然にも渠の“le chevalier sans peur et sans reproche”のバヤールが傷を負ふて路傍に仆れて居るのを認め、助け來つて天幕に臥せしめ、而して此負傷した勇士の爲に己が手兵をさへ附したとのことである。

千五百二十六年の二月と云ふに、パヴヰアの役は戰はれた。若々しいフランス王、フランシス一世は、英姿を陣頭に現はし、一段の勇氣を振ひ起しつゝ指揮に任じたが、戰利あらずして遂に敵手の捕ふるところとなつた。此時であつたペスカラの劣惡なる品性が暴露され、いはゆる明りに出されたのは、玆に於て彼の名聲と名譽の上に一の陰影が役ぜられたのであつた。乃ち、權利上俘虜王の監理は彼に屬して居たが、彼既に戰に倒れ、剩さへ三箇所に傷を負ふ

て居た。而して傷は輕微であつたかなれども、其時は殆んど無能力である、そこで捕虜王の監視は大警官ランノイに委任された。然るに此俘虜王は、ランノイが其受けたる附託の如くにネープルスへ送らずして、スペインへ直送された。ペスカラは忿怒した。即ち彼心中に、皇帝は吾を侮蔑したのである、大警保官は吾を賣るの不埒漢であるとなした。此苦楚の瞬間誘惑は實に彼に而じて居たのである。吾人の觀るが如く、彼は慘酷であつた、人の生命には無頓着であつたが併し決して忘れることの出來ないのは、彼には叛逆の暗い影だけはなかつたと云ふことである。スフオルザ家の大法官たるモロニは、法王よりペスカラに對するの使節として來つた。其要旨は彼にネープルスの君權を與へようとのことであつた。しかし此賞物を贏ち得んとするには、叛逆の徒に變じて、皇帝チャーレスに對するの臣從を棄て、其軍隊も軍事的天才もすべてをフランス、及ローマの爲に齎し提供しなければならぬとの條件を以てした。

此等の提議をペスカラが唯々諾々と聽いて居たか否かは大いに疑はしい。但し彼自ら絶對的秘密を誓約したこと、又彼がモロニを歡待したことは確實である。而して一面使臣が法王に對つて發せられたが、途中其使者は一旅舍の亭主に虐殺されたのであつた。ペスカラ始め其友人等はさることゝは露知らず或は敵の掌中に捕へられしにはあらずやと疑惧れた乃ちペスカラは大法官を賣らんと決心したのであつた。彼はミランの會議に大法官を招き、其室の帷帳の掛布の背後には、王と親密なるスペイン人にして、彼が陰謀を託したるアントニオ・ド・レノヴァを匿し置いた。モロニとペスカラとの會談の間に、凡ての密事はド・レイヴアの聽く所にて、赤裸々に訐かれた、時は宜しと話の終つた頃ド・レイヴアは掛布を排して出で來り、直ちに大法官を逮捕することを命じた。翌日彼は、今の今迄友として信ぜしペスカラの命に由つて拷問に掛けらるゝことゝなつた。此時モロニは言つたのである、『侯爵よりも毒惡、不信仰

の者は此イタリー國中他に一人も無し』と、實にや歴史家は、ヴヰットリア・コロンナてふ世にも比稀れなる才色兼備の佳人の夫として、彼の猛惡なる精神を評決惡まざるはない。『當時不信不實彼に越ゆる者無く、軍隊に於て戰術に於て彼に競ふべき勇者も亦見出し得ざりき』とは、リパモナイトとの彼に對する評言である。

其夫に關はる不德ともいつべき斯る惡評を耳にしたるヴヰットリアは氣も落着かずして直ちに、彼の善天使が其耳にも囁きたらんが如うなる勸言充てる一書を彼に裁して曰く、『尊稱、王國何するものぞ、是れ人としての眞の榮譽尊嚴に何ものをか加ふべき美德と眞理と、此等のものこそ男子の名を汚れ無くして竹帛に垂らしむるの力あり。吾は王の妃たるを望まず、寧ろ戰時に勇氣ある大將軍の妻たり、平常に豁達大度なるいはゆるやさしき人の妻たらんことをこそ希望なれ、斯る人こそ最大の帝王にも超ゆべければなり』と。

悔恨と煩悶とはペスカラの衰弱せる體質を見舞ふた。傷癒へずして益々重患に陷つた。今や望の綱も切れ果つるに至つて、使者を其妻に致した。即ち決する所ありしにや、遺產は彼女に、養嗣のド・ヴアスト侯爵を以て相續せしむることゝなした。恐ろしい傳へを聞いたヴヰットリアは、直ちに夫に會はんが爲、ローマに一日の息繼ぎてよりは晝夜兼行した。ヴヰテルボーにて再度の凶報に接した、ペスカラは最早此世の人でなかつた。十一月二十五日を以て吾が武夫は息絕えた。

ヴヰットリアが此報を聞いた時不覺に陷ることともなからうかと、侍者は大いに惧れた。果して人事不省となり、漸く人心地するに就け姉妹の許に運び入れられんことを請ふた。斯てローマのサン・シルヴエストロの僧庵に急行した時も、失望の極自殺もせずやと、人々皆恐れて居たと云ふことである。されば彼女は、夫の爲に行はれたる壯大なる葬儀も列せず、今は唯己が滅列廢滅の餘生を歎き、彼女が其『輝

ける太陽」と迄呼びし亡き夫に對する祈禱を捧げ、而して失望の末は夫を以て、純潔にして榮光の人とも做した。其友人等は彼女の氣分に就いて憂慮ひ、又或は彼女が尼と成りて、祈禱の爲其愛情の追懷の爲に其餘生を捧ぐることもやあらんかと、甚く恐れ戰いた。即ち彼等が中の一人の請に由りて、法王は、サンシルヴエストロの姉妹達に宛て一の勅令を發した。それには、彼等と共に捿へる此寡婦に對する懇篤なる注意を望まれ、且若し彼女を幇助して尼たらしめんとする者あらば、是れを破門するの旨申越された。ヴヰットリアは其亡き人を悼みつゝ數週間は此僧庵に假寓した。

吾人は迷ふ、若しフランセスコが生きて居たならば、ヴヰットリアは其精神の尊嚴と純潔とを玷汚無しに保持したであらうか？人生に對する夫の嘲笑的觀望てふ損傷的勢力の下に、彼女の精神の美はしい精英は凋落まなかつたらうか？彼女の戀愛詩は、軍人と基督敎徒とに對して語られたる念珠禱の如きものである。それは、長い間分れて居たところの、彼女が理想化したフランセスコ、又常にイッシアの島の麗はしい少年の戀人として居た彼、彼女と共に遊んだ時の彼、彼女と共に學んだ時の彼、後其夫として景慕した時の彼れであつたらうか？

彼女は夫より生き永らふること二十年間であつた。其間或はイッシアの閑居に、或は旅行に、或はオーヴヰエートーやヴヰテルボーの僧庵に、又最後にはローマの半僧院的隱捿に時を過したのであつた

（つゞく）

# 渡米者の栞（西洋禮法つゞき）

河井道子

夫人「三越なぞに廿五錢であります、然し此樣な物がなくとも丁寧に飾り鬢髱を出さず御結ひになりピンで御止めになれば宜しいのです、中村さん失禮ですがあなたの樣に庇の出過たのは米國ではもう七八年前の流行て誰もして居りません、元より顏の釣合を取る爲め小さな心は入れます人もありますが、そして前の方へ御額の長さ以上に高々と大きいのを入れては可笑う御座いますから、それを小さ

く遊ばせ。
せい「難有う御座います、そして見ます。
夫人「清水さんのは失禮ですが毛が柔かいのですね、餘り油を御付けなさらないとふつわりして綺麗ですよ。
まさ「夫人、私は元來縮毛ですから毎朝熱湯で癖直をして長く〳〵時間が掛り油も澤山付けませんとそれは妙になります。
夫人「縮毛にも依りますが貴女のは米國人の好きそうな縮毛ですよ……一度髮を結ひなほし油を少々丈け付けて毛の自然の儘に結んで御覧なさい。
まさ「まあ私の毛が褒められる世の中になりましたとはホヽヽ縮れ毛がよくなるとは……
夫人「白粉も宜しいが日本の厚化粧をして居ると見好く御座いません、別して船などで顔丈コテ〳〵塗つて頸が眞黒で平氣で居たり、頭丈け油でテカ〳〵させて素足で帯もメめずに居りますと一等客の西洋人など『あれは醜業婦だらう』などゝ批評致しますから何んでも整然として居なくてはいけません。
なほ「眞個に奥様に色々と御伺ひが出來て仕合で御座います。
まさ「眞實で御座います何卒どし〳〵御叱り下さい。
夫人「私の申上げる事小言とお思ひなさらないで御聞き下さいお互に日本人同志がよくなり度いからです。
三人「御尤で御座います。
夫人「船中の心得と申のはもう可成申上けましたが此に大切な事があります。西洋では寢室と居間とが別です、女の寢室には決して男子は獨にて入らぬし男の寢室には女が獨で入らぬといふ様に嚴しい禮儀が御座います。若しそれをすると惡人だとか不道徳だとか云はれます、用事があつて是非とも行かねばならぬ時には他の人と一所に行くといふ様にして居ます、用事がなくば決して〳〵這入るものではありません。船でよく男子が用事もないのに女子の寢室に來ては馬鹿話をしたり又女の方から出掛けて行つて大聲で世間話をしたりして居るのを見掛けますが之は大層惡い事ですから第一に注意しなくてはなりません、這入る時でも戸を敲き『おはいり』と返事のある迄に戸を開けたりは決してするものでありません。
せい「まあ惡氣がなくとも一寸御見舞するのでもいけませんのですか。
夫人「御見舞するのでも獨りで行くとか長居してはいけません、然し三等では大勢一所ですから獨りと申す事は有りませんが長居をして居るなどは普通の様になつて居りますから御氣を御付け遊ばせ。
なほ「男子房と婦人房と違ひましよふ。
夫人「左様です男子は大抵一所、女子も又一つ所に集つて居りますそれですから男子の方へ婦人が一人で長居をするの男子が婦人房に長居をするのはいけないと申すのです。
三人「よく分かりました。
夫人「これが第一に注意しなくてはならぬ事ですれ。
せい「奥様あちらでは人の前で云はぬ言葉があると一寸伺ひましたが何の事でせう。
夫人「よく御尋ねなさいました、彼地では極下等な人の外は人の前で姙娠や出産や下の病などの事を大聲て申しません、日本では平氣で男でも女でも申しましよう、日本では何々博士と云はれる方々や身分の高い人々でも西洋で此様な事を人前で申しまず故擯斥されます、其他身體の事御乳とか腹とか兎も角も頸から下の事を醫師の前

の外は申さないとしておくが一番安全です、便所へ行くなどゝ大聲でいはぬものです。

まさ「然し便所が分からない時は如何致しませう。

夫人「勿論尋ねますが女ならば女の方に小さな聲で何處ですかと尋ね、男なら男の人に問ふ様になつて居ます。これも船にも汽車にも旅館にも女と男とは別の處に設へてありますからどの便所でもよいと申すのではありません。

なほ「此様な事御聞かせして戴いて仕合せです知らないと無恥をかく事でしよう。

夫人「着物の事でも大聲で申さぬ物があります、例へばコーセットだのペテコート腰卷だのガーターだのと申しません、一度船中で日本の紳士が物知顔に甲板で西洋婦人のコッセット幾何々ペテコードの色が何々と大聲で咄して居ましたので傍の婦人達は皆其人を避ける様になりました、これも悪い事をしたといふのではありませんが禮儀を知らないからの失敗です、況して男子が婦人病の事や婦人の生理狀態の咄でも日本でする様に致しましたならば其人は爾後門跡として取扱はれます。

まさ「種々な事を伺ひまして仕合せでした知らないと赤恥を掻くのでしたらうに。

なほ、せい「そうでしたとも、餘り長く御邪魔をしては濟みませんから又伺ひませう色々有難う御座いました。

東京では名物の强風の最中ながら大平洋に浮び出した春洋丸は恰かも鏡の上を辷べる様に何の動搖もなく十七日間の航海を始め出した、雜沓する大勢の見送人に別れたのはもう廿四時間前の事である今、は乗客と船員のみにて割合に靜まり返つて居るが之も航海に馴れぬ人々には船が動搖せずとも船暈を始めて居る最中です、直、清、正の三人は各枕を並べて小さな鋼の臺の横はつて居る、その邊りには之も同じく世間馴れぬ田舍娘や中年の細君が丸で病人の姿で其處此處に呻吟して居るので舟に丈夫な人でさへ不快になりそうです、西田夫人は甲斐々々しく淸洒な洋裝で今しも逆の三人を三等室に訪問した所です。

夫人「如何ですか皆様餘程御醉ひなすつた様ですね、動かずそうして居らつしやい、御低頭などして反つて悪くなりますよ。

なほ「失禮致しますどうも何とも云へぬ悪い氣持で弱ります。

夫人「御最です船に乗つた二三日間は心地の悪い物でその上、陸の近所は何時でも波が荒いから船に丈夫な人でも弱ります、何か召上がりましたか。（續く）



# THE HOSPITAL PHARMACY.

## GINZA. TOKYO.

*TELEPHONE SHIMBASHI 2334.*



◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種

東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

**銀座藥品部**

**（舊聖路加藥品部）**

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

# 葡萄作りの話（續）

袖山愛子譯

それから二三週間過ぎて、一人の王樣の奴隷がセバイン山中の淋しい孤家を訪れました、日は夕暮に近く、葡萄造夫婦は門口に立つて彼方の西に沈む夕陽を眺めて居りました。やがて奴隷は近付いて來まして夫婦の者に挨拶を致し、腰に着けて居りました重い財布を取出し、之を葡萄作に渡しました。

「是は貴君方が親切にして上げられた老刀自、フォスチナ樣から貴君方への下賜品です。此お金で葡萄畑を買ひ、鷲が住む樣な奥山ならで平地に御住居を御新築なさる樣に」との老刀自からの御言傳です。

「それでは老フォスチナ樣はまだ御壯健で居られまするか？」と葡萄造は、

「そうとは知らずに儕等は、フォスチナ樣が歸らないものだから此荒れ果てた山中で無殘な最後でも遂げられたかと思つて其處、此處の崖や沼地を尋ねあぐんで居りました。」

「だから私の言はない事ぢやない、フォスチナ樣はどうしても死んだとは私は信じないで、王樣の處へ歸つたのだと所夫にいふたぢやありませんか」と妻はしたり顏、

「ほんとうにお前の云ふ通り、フォスチナ樣が又元の樣に御金持ちになつて儕等をこの貧乏から救ひ上げて下さる事も有難いが、御氣の毒な王樣の爲めにも實にこの樣な嬉しい事はない。

奴隷は暗くならない中に密林を通り越したいから直ぐに暇をしよふと云ひましたが夫婦の者は切りと留めて放しませぬ。

「まあ宜いではありませぬか、今晩は是非御泊り下

さい、そして、フオスチナ様は如何おなりなされたか伺はない中は御歸し申す事は出來ませぬ。なぜ刀自は王様の許へ歸られたか、拜謁の模樣はどんなだつたか、お互に嘸御喜びになつた事でせうね？

奴隷も今は拒み兼ね夫婦の後に付いて家に入り、夕餐の膳に向ひながら彼は王様の御病狀や、フオスチナ歸還の樣子など委しく語つた聞かせました。

奴隷が此話を語り終りますと、夫婦の者は何か非常に驚いたかして妙に默り込んで仕舞ひました、彼等は暫く地面を見つめながら何か思ひ當たる事があるらしう御座いました、やがて葡萄作は其妻に向ひ

「是は皆神様の御攝理だといふ事をお前は信じないか？」

「さうですね、私共の神様が私共を海を越えてこゝに御遣しになつたといふのもこの爲めなんですね、ほんとうに老刀自が私共の家に來るといふのもみな神様の思召だつたのでせう。

葡萄作は妻の此言葉を聞いて、再び奴隷に向ひ、

「御使者様、どうか私の云ふこの言傳を必ず忘れないでフオスチナ様に傳へて下さい。この言葉を逐一申上げて下さい。セパイン山の山奥に住む葡萄作夫婦が宜しく申して居りました、貴刀自の見た若き女、私の妻は貴刀自の御目に美しいとは見えませんでしたか？　又壯健さうには見えませんでしたか？　けれど此若き女は嘗て今王様が罹つて惱んで居られる其同じ病に苦しんだのでした」と、

奴隷は驚きの眼を見張りました、葡萄作は尚も非常に熱心に其言葉に力を入れて、

「若しフオスチナ様が私の言葉を信じて下さるならば、どうぞ刀自に申上げて下さい、私共夫婦は此病氣が非常に流行る亞細亞のパレスタインから渡つて來た者でありまして、其國の掟として癩病患者は市邑の外に追出し、墓地か、山洞の外には住んではならぬ事となつて居ります。

奴隷は馬鹿らしいといつた風に哄笑しました。

「戲談ぢやない、フオスチナ様がどうしてこの話を

お信じなさるものか、刀自の見た貴君の妻は美しくて、壯健でしたもの、そしてこの病氣にはよい藥はないといふ事を知つて居られますに、」

葡萄作は尙も言葉をつゞけ

「何でもよいからたゞ私の言葉を信用さへすればよいのです、それの證據もない譯ではない、ガリラヤのナザレに使者を遣はせばよい、其處では誰れでも私の言葉が本當であるといふ事を證明するだらう。

「それでは或神樣か何かの奇蹟で偶然にお内儀さんの病氣がなほつたといふのですか？

「そうです、お前樣の云ふ通りです、或日の事、荒野に住んで居ります癩病患者共は何處ともなく噂を聞きかおりました、何んでもガリラヤのナザレに非常なゑらい豫言者が居て、其人は神樣の聖靈に滿ちて居て、只一寸其手を病人の額へ置いた計りで、病氣を癒す事が出來るといふのです。處が非常な悲慘な狀態に陷つて居ります病人共はそんな事信じ樣とも致しません、「何だつて、儕等の病氣を癒すつて、戯談ぢやないぜ、開闢以來今日迄誰一人だつて此不幸から救はれた者はないのだからなア」と誰れも相手にしません、處が其中でたつた一人信じた者がありました、それは若い乙女で、他の者を構はずに大豫言者の住むと云ふナザレの町を尋ねて出掛けて行きました、或日彼女は野原をさまよつて居りますと背の高い、顔の青白い、黑いちゞれ髮を平らに後ろに垂れた一人の人に逢ひました、其人の黑い眼は星の樣に輝きまして彼女を傍に呼びました、二人が逢ひます前は彼女は彼を見て叫んだのでした、

「私の傍に寄つてはいけませぬ、私は汚れたものです、どうぞ私に何處にナザレから出た豫言者が居られるか敎へて下さい！　其人は尙も彼女の方へ歩んで參りまして尋ねました。

「何故汝はナザレの豫言者を尋ねらるゝぞ？」

「ナザレの豫言者が其手を私の額に置かれますと私の病氣が癒ると聞きました故それで尋ねて居るのです」と乙女は答へました。（つゞく）

# 會告

**八月及び九月** 發行の本誌は合併號として頁を倍數とし九月一日に發行す。兩修養會に於ける講演、記事及會員消息を掲載す、又讀者中歸省中に於ける經驗等を記載して寄稿されなば本會は喜んで之を受くべし、此合併號に限り一部金十六錢（但し前金拂は然らず）

## 本部報告

去る六月十六日（土）午後二時半より六時迄本部會館に於て兼てより本會に對し多大の援助を與へらるゝ米國實業家手塚國一氏夫人ドラ子、荒井良一氏夫人田鶴子、一ノ宮鈴太郎氏夫人操子の御三名の今回紐育市より御歸朝御滯京中なるを幸ひ御招待して歡迎を兼ね親睦會を催したり。

◎中央委員山田千代子氏は六月上旬、大阪府下今里女子神學校に於けるバプテスト婦人修養會に講師として出張せられ、其後關西地方を巡回されたり。同時に河井幹事も同會に臨み、歸途プール女學校に立寄り校長に會見し宮川牧師を訪問し、後に京都同志社に一泊して歸京す。

◎マシウ幹事は六月下旬より七月にかけ關西地方を視察、特に長崎に至り、渡米婦人の問題を攻究せんとす。

◎レーガン幹事は病氣の爲五月十五日横濱解纜のエンプレスロシア號にて歸米の途に着かれしが、無事御着の報に接したり。尙其後任として特志に働かれしミスフォールは六月廿五日横濱より出帆さるゝ筈委員一同同氏の厚意を感謝す。

## 東京基督教女子青年會報告

五月廿六日（土）午後二時より總會を本會館にて開く、種々の議事の終りたる後新渡戸博士の御講話ありたり、出席者は主に本會々員にして二百名程なりき、閉會の後階上にて茶話會を開きて互いに親睦す。

六月六日(水)富士見町教會の婦人會及び同青年會主催となりて臺灣婦人の歡迎會を當會館に於て二時より催す、出席者八十名程にて中々の盛會なりき。

六月十二日(火)午後八時より露國兒童同情會主催の音樂會を開く、來會者二百七八十名にして各國の婦人方を網羅し、同情會としては最も美しき會々なりき。プログラムは喝采の中に終りをつげしは十一時十五分前なりき。

六月十七日(日)當日は第三日曜日に相當すれば例の祈禱會を午後三時半より開く、牛込教會牧師田島先生の「眞の十字架」につき御講話あり、尙女子學院青年會有志の奏樂、合唱等ありて最も眞面目なる會合なりき。

## 横濱青年會報告

本會は每月第二水曜日午後五時より委員會を開く出席委員は大抵辨當持參にて樂しく食すを常とす、去る十三日の委員會にてブレーク夫人を副會長に選擧せしが同夫人は近日御歸國にて辭退されたり、さればペーン夫人を常務委員に上げたり、近日中新會員親睦を目的として本會館にて何かの催あるべし、今秋は維持費の一部に充つる爲め諸師の同情を得てバザーを開かんとす、過日擧行せし音樂會の決算左の如し。

收入金五百拾六圓貳拾五錢也
支出金壹百〇貳圓參拾錢也
殘金(純益)金四百拾三圓九拾五錢也

## 支部報告

**同志社女學校青年會** 過日は御多忙の中を河井先生には私共委員、役員の爲當支部に御立寄り下され有難く御禮申上候、親しく色々力ある御勸を受け私共只々感謝の外は御座なく候、此後は更に一同協力して當青年會の眞の發展に努め度くと勵み居り候。修養會に代表者派遣する爲めに私共は過日左の順序に從ひ催し候處雨天にも拘はらず盛會を極め誠に感

謝の外なく候、御蔭様にて七八人の代表者は充分出し得る事と存じ候。

六月九日夕午後七時開會
同志社女學校青年會主催

曲　目

一開　會　辭
一オルガン獨奏　　原　美榮
一合　唱　　唱歌隊
一ピアノ連奏　　原田みさを　小北初枝
一合　唱　　唱歌隊
一ピアノ獨奏　　平田千代
一合　唱　　唱歌隊
一ピアノ獨奏　　佐伯忠
一獨　唱　　曾我部しづ
一ピアノ獨奏　　田中寅之助
一合　唱　　唱歌隊

十分休憩

一同志社スピリット　　會員
一ピアノ獨奏　　長田たき
一多　物　語　　會員
一合　唱　　唱歌隊
一挨　拶

以　上

**廣島女學校青年會**　七月分より雜誌合計卅三部御送附下され度願ひます。

此頃は日曜日の夕、運動時間に寄宿生の爲めに青年會の祈禱會が御座います、音樂部の方々は來月頃に小慈善音樂會を開く樣にも運動致して居られます仕事の方はタテングやハンカチーフを始めに作る事に定まりました、祈禱會は各組が一ケ月に二回程開き、壹ケ月に一回大集會をする事になりました、園藝部の畑にも矢車草や除蟲菊が小さい芽を出し始めました、雛菊などは小いですけれど小さい花をつけてゐます、會は追々盛になつて參りますけれど、もつと〳〵活動しなければならないと存じて居ります。

**廣山女學院青年會**　本年新學期に於ては殊更なる御援助を仰ぎ、御蔭樣にて凡て整理相濟み漸く活動を始め候間御安心下され度候、就ては先達役員會を催し本部に對する義務として各學期に會費全額の二割を御送附申上ぐる樣決議致し候、然る處最初より

名簿を作らざりし爲め常に會費收入高の不足を來し居りしが、先達始めて名簿を作らんと會員を精密に調査致し候處會員數の意外に少數なるに驚き申候、斯る次第故御送附申上ぐる金額も誠に少なく殘念に存じ候併し來學期は會員を增加せんとの希望にて全力を盡すべく候、

**金城女學校靑年會**　過日は誠に御懇切なる御手紙誠に有難く御禮申上候、一同感謝致し居り候、本部への義務金遲く相成候て申譯なく候只今同封にて御送附申上げ候間御領收下され度候、過日の靑年會に淸流女學校の靑年會役員方を御招き致し種々會の事に就き協議致し度き心組に候ひしが、生憎先方に少し御差支があるとやらにて殘念ながら中止致し候、次の靑年會の時には多分御出の事と存じ候。過日六月一日より三日間靑年會の催にてソントン先生を本校にお呼び致し候て御說敎を願ひ候。

**弘前女學校靑年會**　新しき勇氣を以て御事業の爲に努力致し居り候、今年度の役員は左の如くに御座候、會長及川直子、副會長伊香とみ、會計高谷くに書記村田ふさ、誘導委員長古川たけ、慈善部委員長竹中愛子、矯風部委員長野口文子、顧問岡本みどり、集金委員長佐藤八重。

**プール女學校靑年會**　本年新學期に於ける役員選擧の結果は左の如く決定致し候、會長櫻井先生、會計吉本先生。書記益田國香、祈禱部吉本先生、關口かね、日曜學校林先生、慈善會山ノ內先生、泉水きよ、川北樹子、曾我重子、慰問部石田先生、松岡よし、紡績部畠山輝子、河原一代、西村小梅、博愛社吉本みどり、豐島福枝、全會員數百廿二名に候。

**フエリス女學校靑年會**　新學期を迎へると共に多くの新しき姉妹方を送られ、一同感謝致し居り候、五月四日役員會を開き、左の如く役員改選致し候間御通知申上候。會長石川貞子、副會長春日よし子、會計山田千代子、高木敦子、日曜學校長藤澤かつ子書記鈴木靜江。

## ◯入會申込者 （本部報告）

特別會員　津川　榮子　森久保壽子

普通會員　川島　友江　塙　かよ子　秦　縫子　中山けい子

## ◯本會事業費寄附金領收 （本部報告）

金五　圓　也　古澤繁治郎氏　フェリス女學校青年會

金參　圓　也　金城女學校青年會

金拾　圓　也　同志社女學校青年會

金貳　圓　也　東洋英和女學校青年會　河井　道子

金貳圓七拾五錢也　青山女學院青年會

## ◯會友費領收 （本部報告）

金貳圓也

時任　ちか（大正五ノ一一六ノ十二）大野　秀（同上）

山家　秀子（大正五ノ一一六ノ十二）西澤すみえ（同上）

中村　瑞子（大正五ノ九一七ノ八）白上　近子（大正五ノ五一七ノ四）

若松　りち（大正五ノ四一七ノ三）吉松　靜子（大正五ノ一一六ノ十二）

田中　里子（大正五ノ四一七ノ三）大谷　まき（同上）

背川　英子（大正六ノ四一七ノ三）筒井　たき（同上）

大非　夫人（大正五ノ一一六ノ十二）關根　まつ（大正五ノ七一七ノ六〇）

井上　文子（大正　ノ一一　十二）笹尾　すみ（同上）

紅松　文子（大正六ノ一一　十二）笹尾　やす（大正六ノ二一七ノ一）

内田　すみ（大正六ノ四一七ノ三）伊藤　直七（大正七ノ四一八ノ三）

湯田キミノ（大正六ノ二一七ノ一）諏訪　ふみ（大正六ノ四一七ノ三）

鈴木　すゞ（大正六ノ一一　十二）坂出　夫人（同上）

◯金壹圓也

高倉　せん（大正　ノ一一　十二）岩本　昌子（大正六ノ五一七ノ四）

佐田　文代（大正六ノ十二一七ノ十）筒井　たか（大正六ノ五一七ノ四）

中山　けい（大正六ノ五一七ノ四〇）

◯金壹圓五拾錢也

川島　友江（大正六ノ五一七ノ四）村上　イツ（同上）

小林　勝子（大正六ノ四一七ノ三）岡本　翠（同上）

岡田　榮子（大正六ノ四一七ノ三）石原　龍子（同上）

龜高よしゑ（大正六ノ三一七ノ二）高村　高子（同上）

今泉　艶子（大正六ノ二一七ノ一）松田　縫（同上）

橋本　幾代（大正六ノ五一七ノ四）渡邊　靜子（同上）

寺尾　晃（大正六ノ五一七ノ四）髙島まさの（大正六ノ一一　十二）

松井　蔦（大正六ノ四一七ノ三）

◯金壹圓貳拾錢也

塙　かよ子（大正六ノ五一七ノ四）秦　縫子（同上）

◯金拾圓也

津田　榮子（大正六ノ五一七ノ四）森久保　壽（大正六ノ六一七ノ五）

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税

| | 内地 | 海外 |
| --- | --- | --- |
| 一部 | 金八錢 | 金拾壹錢 |
| 一年前金 | 八拾錢 | 金壹圓貳拾錢 |

廣告料

| 一回掲載 | |
| --- | --- |
| 一行 | 金參拾錢 |
| 四分一頁 | 金二圓 |
| 半頁 | 三圓五拾錢 |
| 全頁 | 金六圓 |

年極又は回數により割引有

大正六年六月廿八日印刷納本
大正六年七月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地
河井道子

印刷人　芝區櫻田和泉町七番地
前川吉次郎

印刷所　芝區櫻田和泉町七番地
三成舍

**SENDAI, AT MIYAGI JO GAKKO, JULY 24 TO 30**

Leader: Miss Kita Hasegawa.

Bible Teachers: Inquirers' Class, Prof. C. Kajiwara; Miracles, Rev. Y. Inagaki; Romans, Miss Jun Kido; Junior Class, Miss Kita Hasegawa

Tuesday, July 24. 6 : 30 P. M. Opening, Miss Hasegawa, Miss. Okonogi

Wednesday, July 25. 8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 A. M. Committee and Officers Conference
10 : 30 to 11 : 30 A. M. "The Life of a Disciple," Rev. K. Hoshino
6 : 30 to 7 P. M. Sunset Prayer-meeting, Miss T. Kato
7 : 30 to 8 : 30 P. M. "Character and Religion," Rev. K. Hoshino

Thursday, July 26. 5 : 30 to 6 A. M. Sunrise Prayer Meeting
8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 A. M. Associotion Reports
10 : 30 to 11 : 30 "Minerals in the Bible," Prof. J. Iwasaki
Afternoon, Stunt party
7 : 30 to 8 : 30 P. M. "Summer Conferences in America," Miss T. Iwasawa

Friday, July 27. 8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 Association reports
10 : 30 to 11 : 30 Address, Prof. I. Yano
6 : 30 to 7 P. M. Sunset Prayer Meeting, Miss T. Fuse
7 : 30 to 8 : 30 "Women and Social Service" Rev. K. Tomeoka

Saturday, July 28. 5 : 30 to 6 A. M. Sunrise Prayer Meeting, Miss K. Harada
8 to 9 „ Bible Hour
9 : 30 to 10 „ Question Hour
10 : 30 to 11 : 30 A. M. "The Narrow Gate and the Broad Road," Rev. K. Tomeoka
Afternoon, Picnic

Sunday, July 29. 9 : 30 to 11 : 30 A.M. Song Service, and Sermon, "Truth and Liberty," Dr. K. Ibuka
Afternoon, Delegation meetings
7 : 30 to 8 : 30 P. M. Vesper Service, "Eternal Life," Dr. K. Ibuka

Monday, July 30. 5 : 30 to 6 A. M. Sunrise Prayer meeting
8 to 9 Bible Hour
9 : 30 to 10 Question Hour
10 : 30 to 11 : 30 "How to Know the Truth," Rev. P. Inagaki
6 : 30 P. M. Closing Meeting, Miss Kawai

GENERAL INFORMATION.

Registration fee: For entire conference Yen 1.00 or fifteen sen per day.
Board: For the entire conference Yen 5.40 or eighty sen per day. .60 for one night and two meals; .25 for one meal

Do not bring heavy baggage. Hand baggage may be sent to the school by "Shinai" delivery. Mark all baggage with your name.

Bring pillow case, sheets, and house shoes. If convenient, blanket and pillow. Bring tennis racket and kodak if you have them.

Applications should reach the National Office Y. W. C. A, 14 Kita Jimbo cho, Kanda by Saturday, July 7th.

# SUMMER CONFERENCES
# YOUNG WOMEN'S CHRISTIAN ASSOCIATIONS
## (Twelfth Summer 1917)

---

Motto: St. John 8 : 31, 32.

**KOBE, AT KOBE COLLEGE, JULY 18 to 24.**

Leader: Miss Ai Hoshino

**Bible teachers:** Inquirers' Class, Rev. K. Nagasaka; Philippians, Rev. S. Mori; Hosea and Amos, Rev. T. Aoki; Junior Class, Miss Ai Hoshino.

**Wednesday, July 18.** 6 : 30 P. M. Opening; Miss Hoshino.

**Thursday, July 19.** 8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 A. M. Committee and Officers' Conference
10 : 30 to 11 : 30 "Gospel of Release," Rev. Z. Hinowara
6 : 30 to 7 P. M. Sunset Prayer Meeting, Miss Mikie Miyagawa
7 : 30 to 8 : 30 "My Hope for Young People," Mrs. Taki Shidachi

**Friday, July 20.** 5 : 30 to 6 A. M. Sunrise Prayer Meeting, Miss T. Fujita
8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 A. M. Association Reports
10 : 30 to 11 : 30 A. M. "Happiness of Fellowship," Rev. T. Aoki
7 : 30 to 8 : 30 P. M. Activities of American Y. W. C. A., Miss Michi Kawai

**Saturday, July 21.** 8 to 9 A. M. Bible Hour
9 : 30 to 10 Association Reports
10 : 30 to 11 : 30 "The Source of Freedom," Dr. I. Nitobe
Afternoon, Stunt party
6 : 30 to 7 P. M. Sunset Prayer Meeting, Miss Chika Nakaji
7 : 30 to 8 : 30 Temperance Work, Miss Uta Hayashi

**Sunday, July 22.** 5 : 30 to 6 A. M. Sunrise Prayer Meeting, Miss J. Koike
Conference attends Sunday Schools and Churches of Kobe.
Afternoon, Delegation Meetings.
6 : 30 to 7 Vespers
7 : 30 to 8 : 30 "Present and Future of the Y.W.C.A. Miss Kawai and Miss Matthew

**Monday, July 23.** 5 : 30 to 6, Sunrise Prayer Meeting, Miss N. Matsumiya
8 to 9. Bible Hour
9 : 30 to 10. Question Hour
10 : 30 to 11 : 30 "What is Truth," Dr. S. Harada
Afternoon Picnic

**Tuesday, July 24.** 8 to 9. Bible Hour
9 : 30 to 10. Question Hour
10 : 30 to 11 : 30 "The Problem of Problems," Rev. K. Miyagawa
6 : 30 Farewell Meeting, Miss Kawai.

**Kobe delegates will leave the train at Sannomiya.**

**Kubohama Store and Kudan Hill.**

**are inseparable.**

**Get Your Japanese Clothes.**

**Now !!**

純日本趣味と何ともいへぬ
情緒の籠つた中形は
弊店に見に入らして下さい

# 呉服は九段の久保濱へ

御注文は

電話番町九二三番
振替東京八四四九番

何といふても他店にまねは
出來ません呉服は九段の久
保濱へ見に入らして下さい

# Magic Lantern Slides

## a Specialty.

## Colored Bromide Postal Cards

(Large collection of pictures of Japanese scenes and customs.)

Y. WATANABE, PHOTOGRAPHER

No. 44 Bentendori, Yokohama.

◎人像撮影
最新式美術的寫眞を調製す

◎出張撮影
遠近不拘精〻御便利を計り貴需に應ず

◎現像及び焼付
迅速且つ叮嚀に御用命に應ず

横濱市辨天通三丁目四四

**渡邊寫眞館**

---

# T. YAMAMOTO

**EMBROIDERER AND DRESS MAKER**

*No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan*

Tel. No. 3998 (Near the Grand and Oriental Hotel.)

*EMBROIDERIES*

*SILKS LINEN AND COTTON CRAPES*

**READY MADE**

**Dresses Blouses and Under Wear**

*Always on hand at Moderate Prices*

横濱市山下町六十一番地

絹物商 山本商店

電話三九九八番

後付三

# 日本基督教女子青年會

## 目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

## 會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

## 事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の養に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓發につとむ

## 中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）

エ、ビ、ウエスト（東京）

鈴木歌子（東京）

小此木松子（東京）

長谷川喜多子（東京）

星野愛子（東京）

フイッシャー（東京）

イ、クレメント（東京）

志立たき子（東京）

山田千代子（横濱）

藤田貞子（横濱）

城戸順子（横濱）

廣岡淺子（大阪）

ケー、トリストラム（大阪）

エム、エフ、デントン（京都）

佐伯小糸（京都）

松田道子（京都）

エス、ツール（神戸）

上代淑子（岡山）

## 役員

幹事（本部）　河井道子

同（同）　エム、エル、マシウ

書記（同）　イーエム、ガンター

幹事（東京）　加藤高子

同（同）　エム、ベーチ

同（同）　渡邊百合子

料理科擔任　エフ、パタソン

同（横濱）　ルースレーガン

同（同、　イー、アル、カウフマン（歸國中）

同（同）　エム、ベーカー

移民部係　吉田いと子

事務員（本部）　松宮のぶ子

事務員（東京）　小篠端子

事務員（横濱）　鈴木貞子

旅行者の友係　林ふさ

幼稚園主任保姆　世良田勇子

幼稚園助手　古谷たまき

第一寄宿舍監　門倉ふじ

第二寄宿舍監　大西絹子

第三寄宿舍監　有田玉子

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾四巻第七號（毎月一回一日發行）
大正六年六月廿八日印刷納本　大正六年七月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可